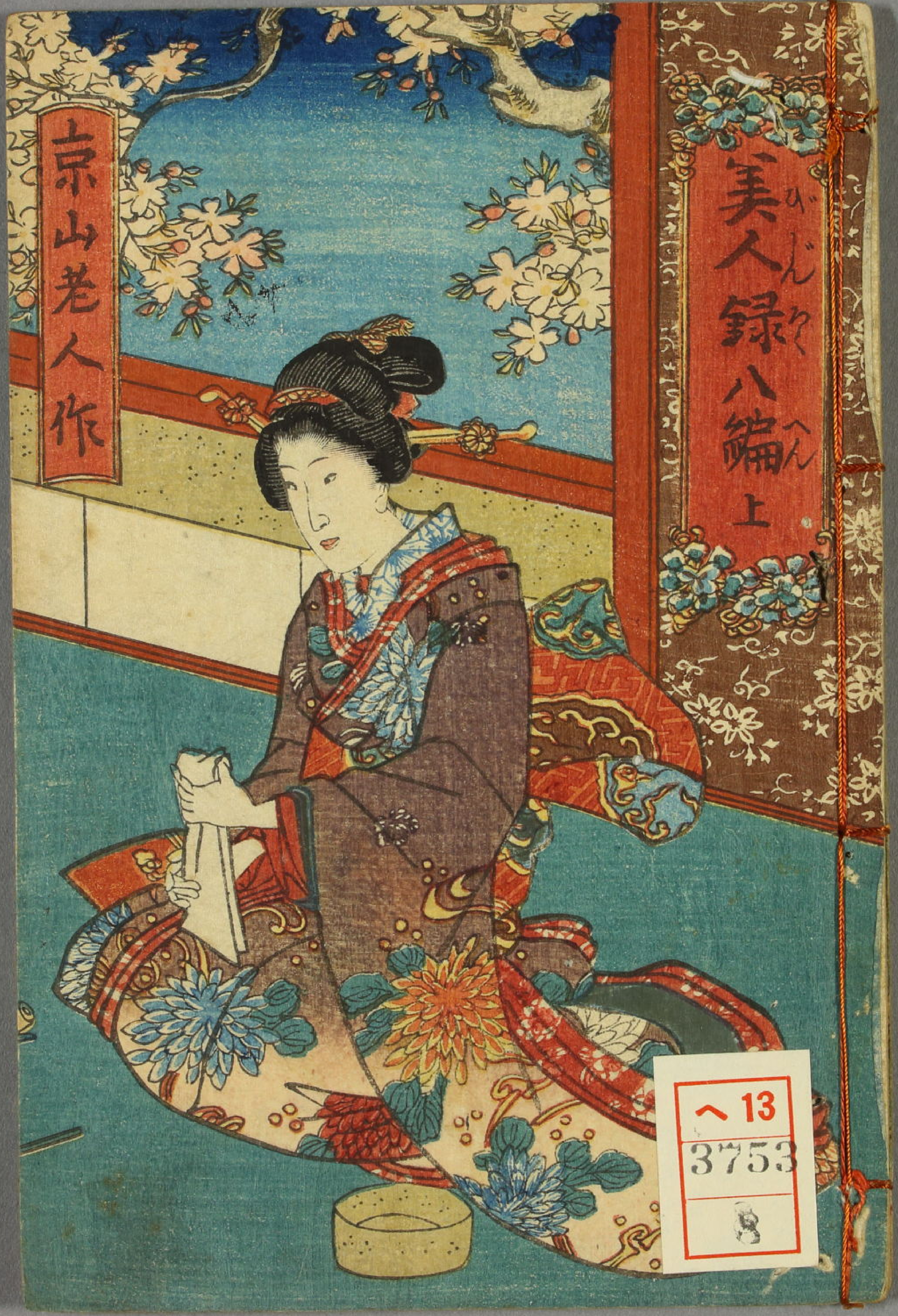


美人録八編　上

京山老人作

へ13
3753
8

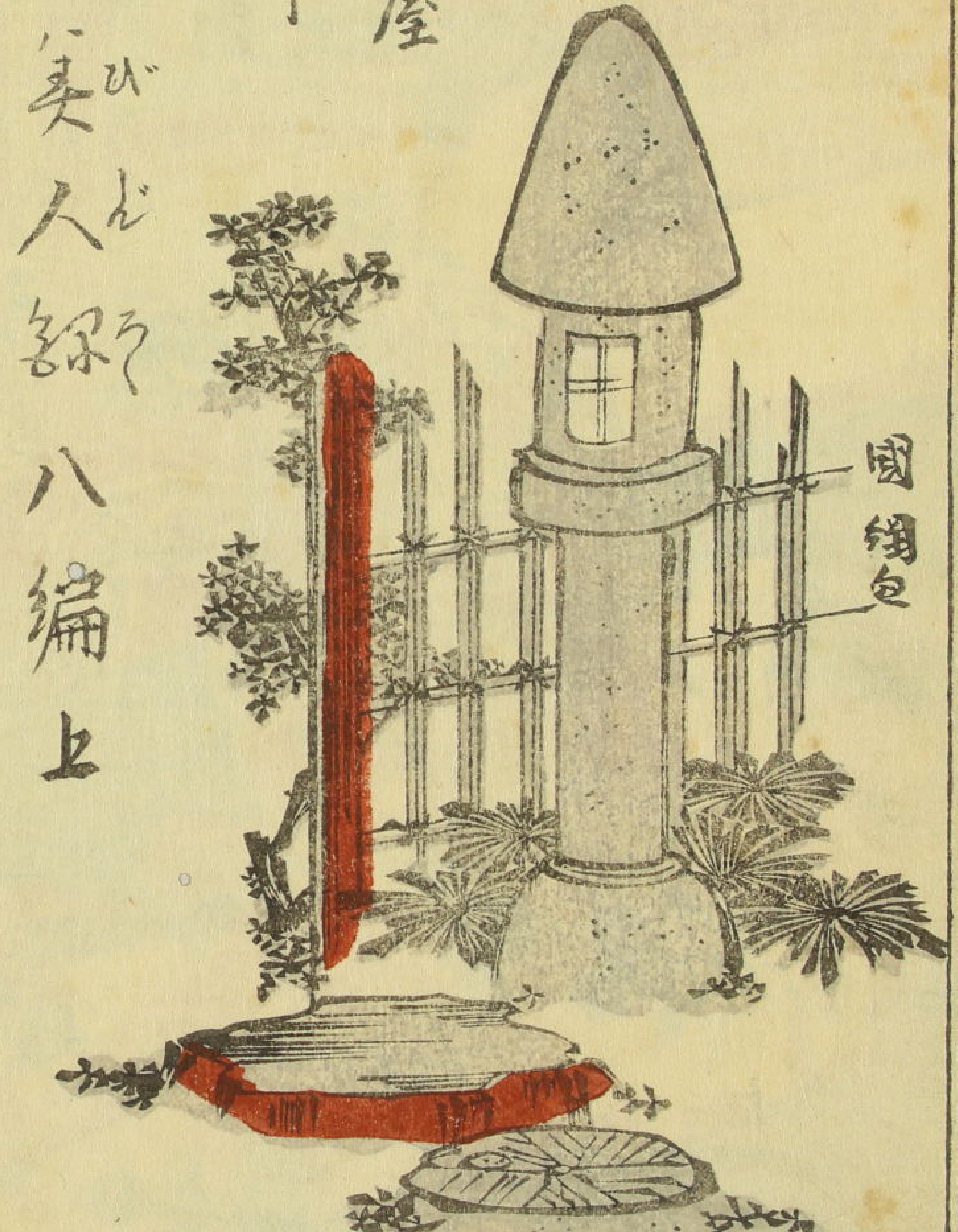
門 へ 13
號 3753
巻 上 8

京山作
国輝画

佐野屋
寿梓

琴声美人録八編上

嘉永六年癸丑春新版

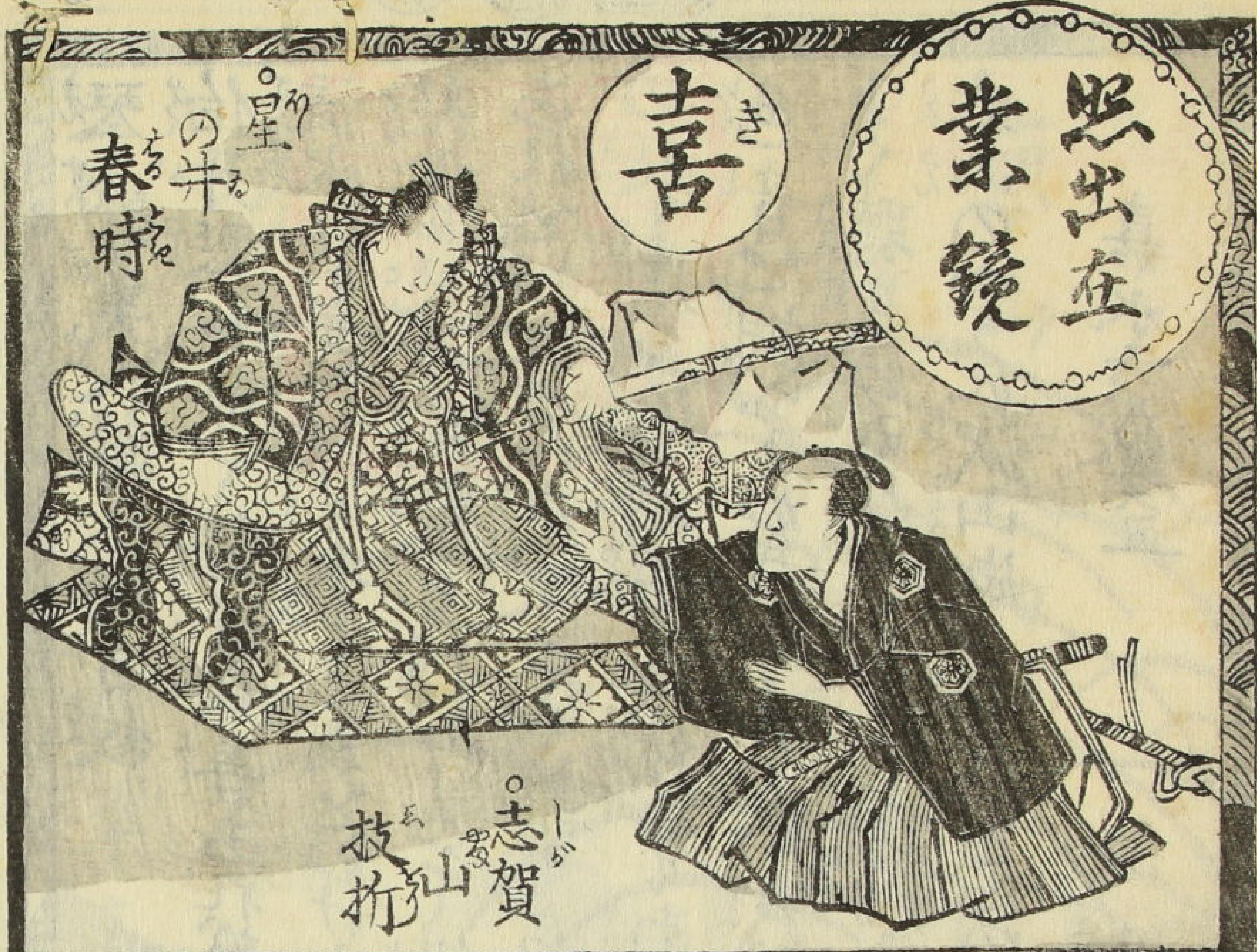


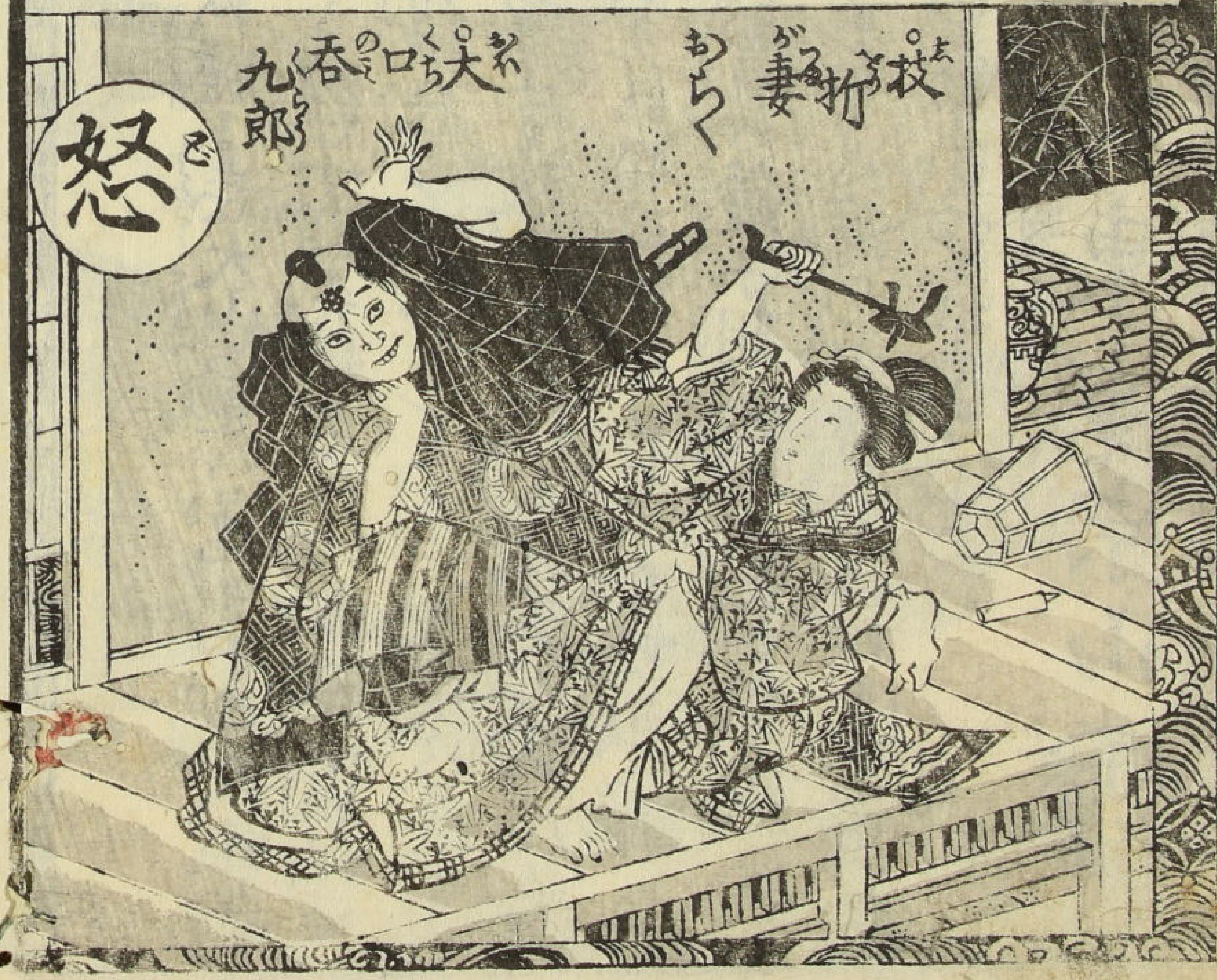
[illegible]

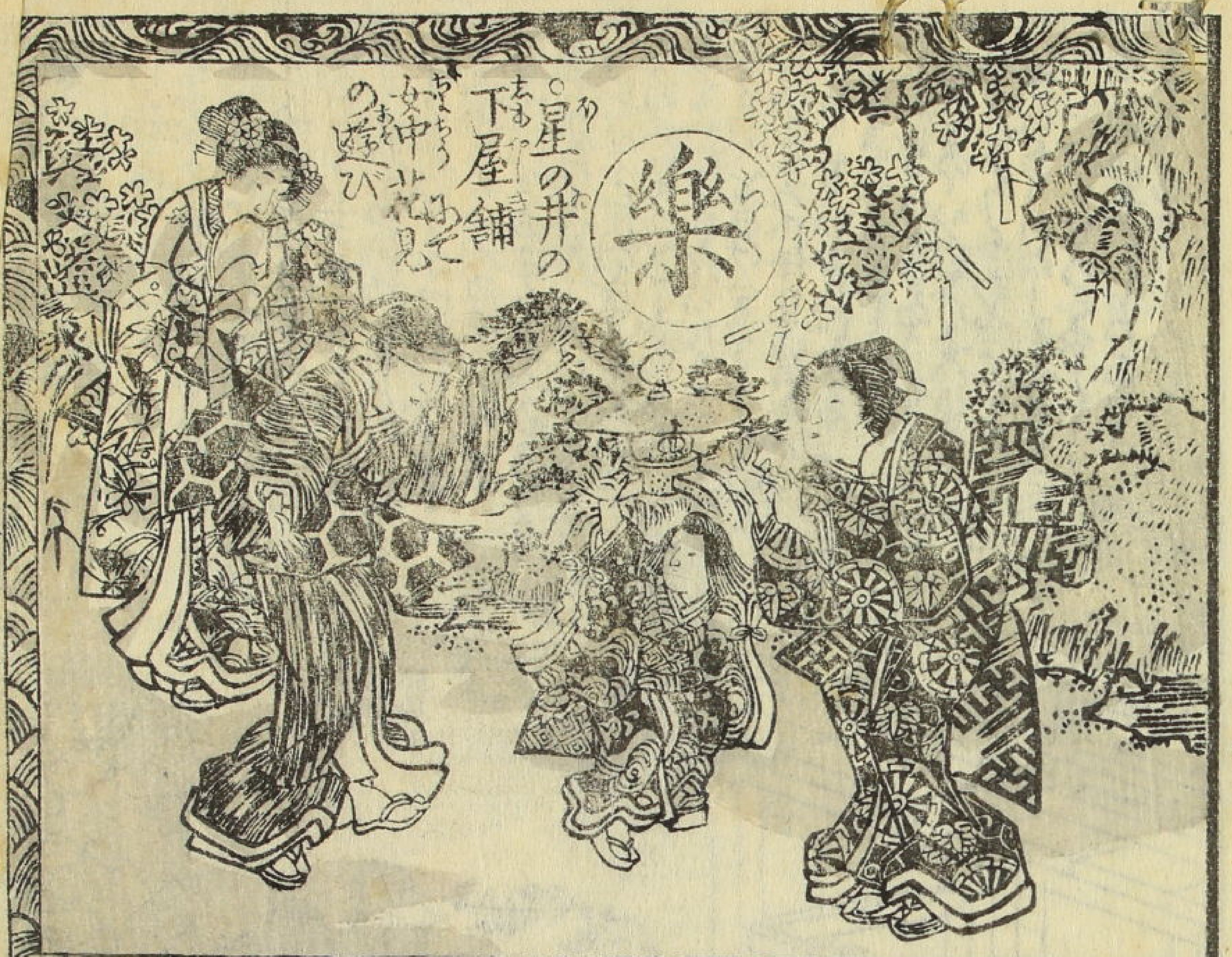
琴聲美人録八編自叙

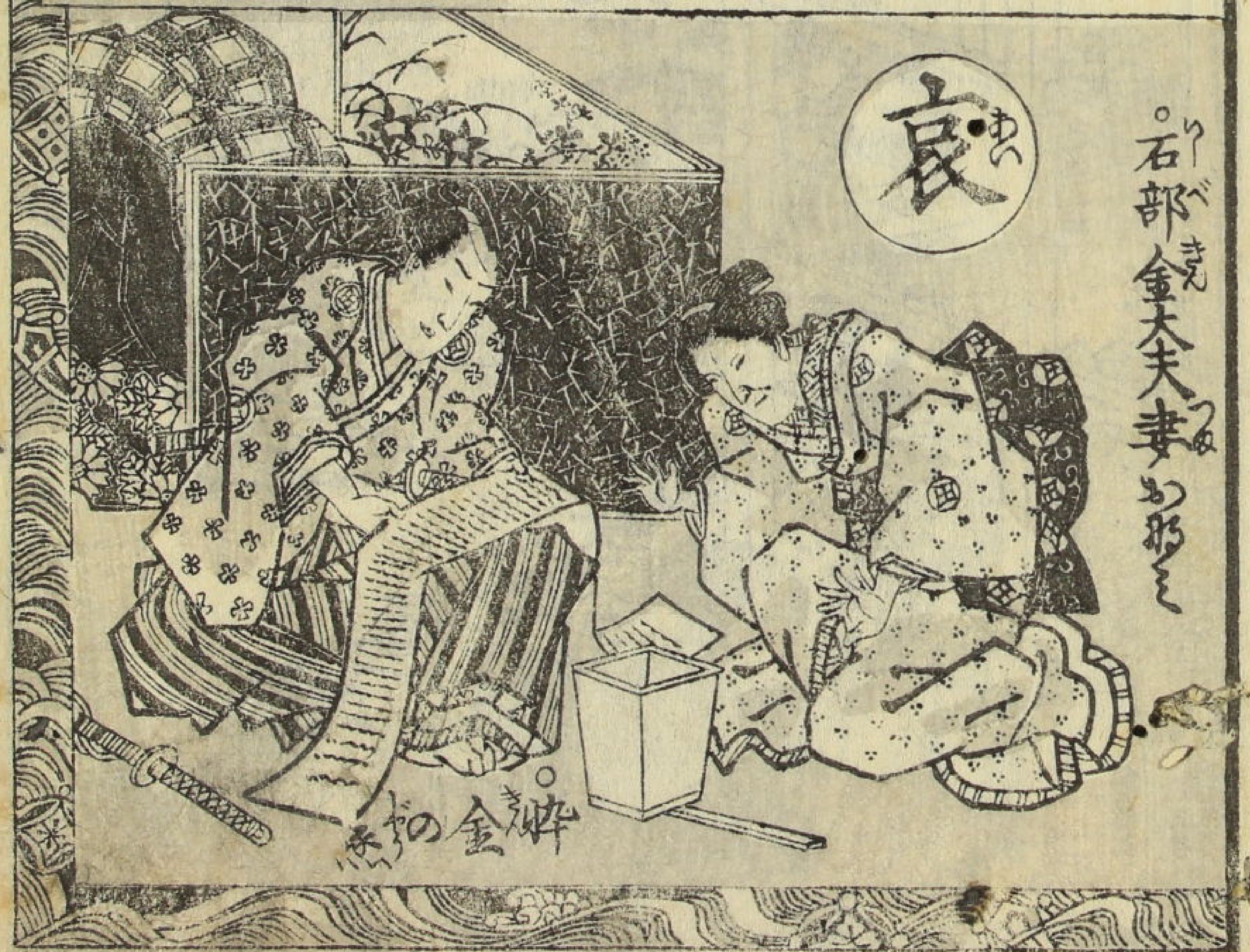
伯牙琴を鼓く鍾子期善これを聴る志大山に在ば巍々乎と美祢志流水にあれバ洋々乎とこゑをかける鍾子期失けれバ伯牙琴を擲絃を絶て世に琴を足鼓ものなしとて復琴を鼓ざりしと呂氏春秋に見へたりこれを知音の交といふ誰もしりたる故事なり今こゝに美人録八編四季の琴声を陶淵明が無絃にもあらず邪正の糸まち〳〵と貞婬の色音を調べてかきあらはすも琴声なれバ鍾子期に似て正直なる児曹よく聴ゝわけなバすゝめしも為になるハ滝の水流水の如く世にながれ太山のやうに沢山御もとめあれとそのねがひ侍るばかりの

八十三八翁
嘉永六歳癸丑
山東庵京山


思出在業鏡
喜
○星の井春時
○志賀山枝折


○枝折が妻おらく
○大口の呑九郎
怒

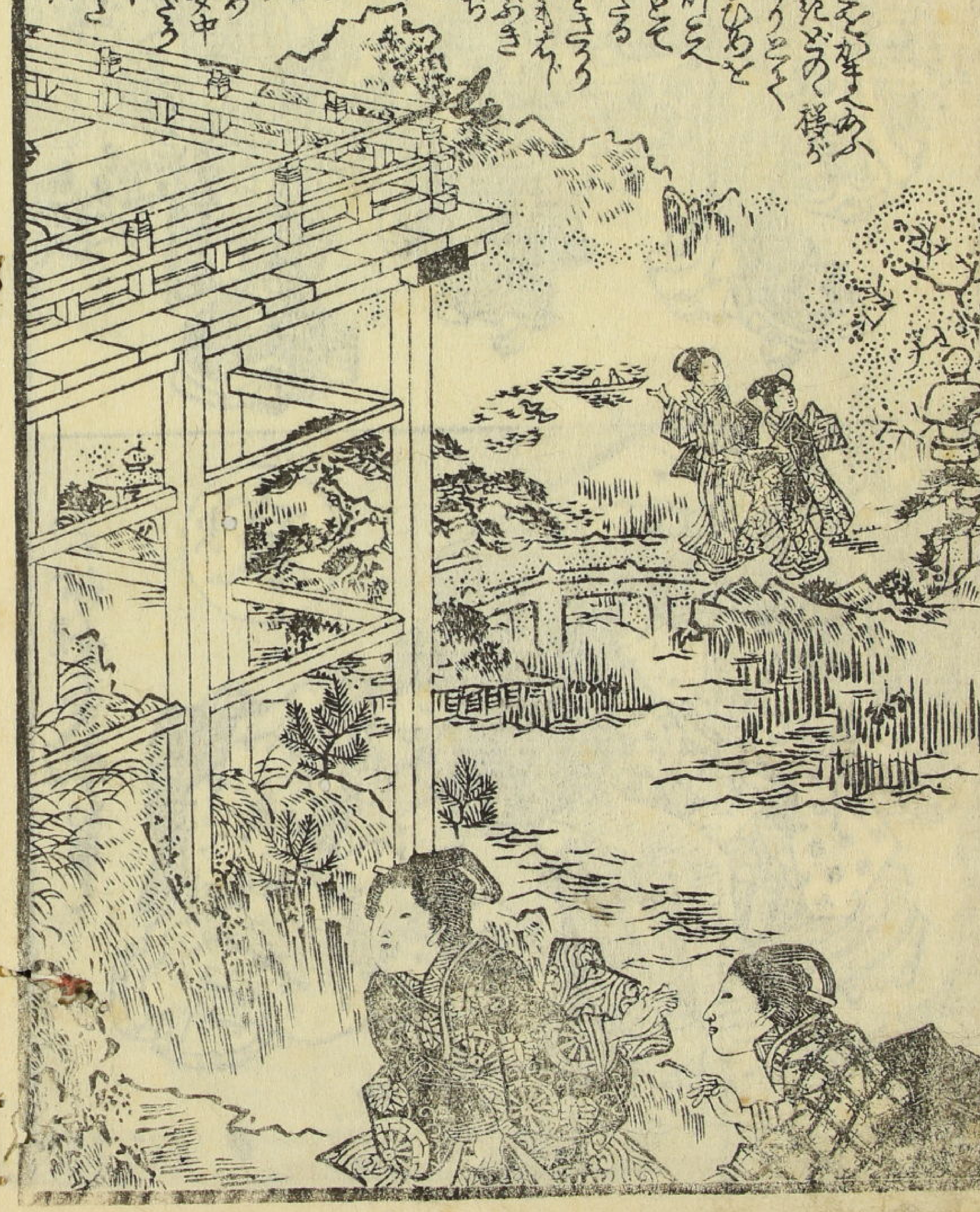

樂
○星の井の下屋鋪
女中花見の遊び

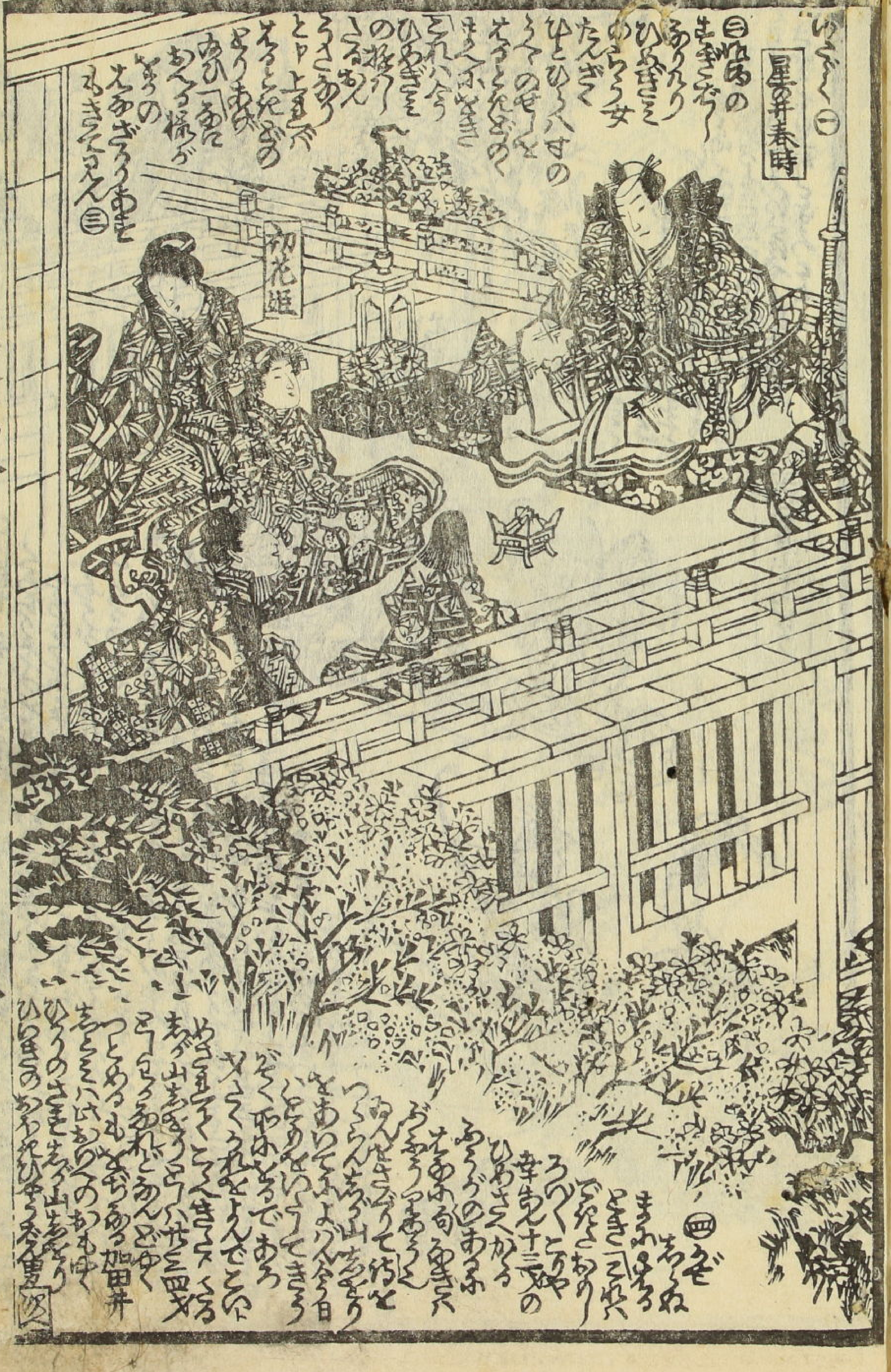

○石部金太夫妻おかく
哀
○粋金の悉

美人録八編

○初段

かまくら扇がやつにすまひして年久しく星の井えんゑもんといふ浪人がそのむすめもやさし美のきりやうよくことし十三才なる初花ひめをともあひ[illegible]のかど[illegible]いつも四八[illegible]ひうとそきのふ[illegible]人のきやう[illegible]するおんなへの[illegible]さてゝへいそときやうみそさきもとりくだちりかゝれどめづらしきのさくら[illegible]山ぶきこずゑのひろうをそへるちりぢりあさゆきのしき[illegible]のたまのやうらくとさげくるまでおりのところ八伊豆の山ふづきよりあそびの[illegible]へふきそへるゝ[illegible]をえもいはれざるけしきなりけるとれたのしくちんぞく[illegible]きやうぞそれよりあるさの女中ハさらなり[illegible]一二人さきそうや二人わくそのとゞまりれおくの庭へ[illegible]のあそびきとひかしのやうたなりしハ

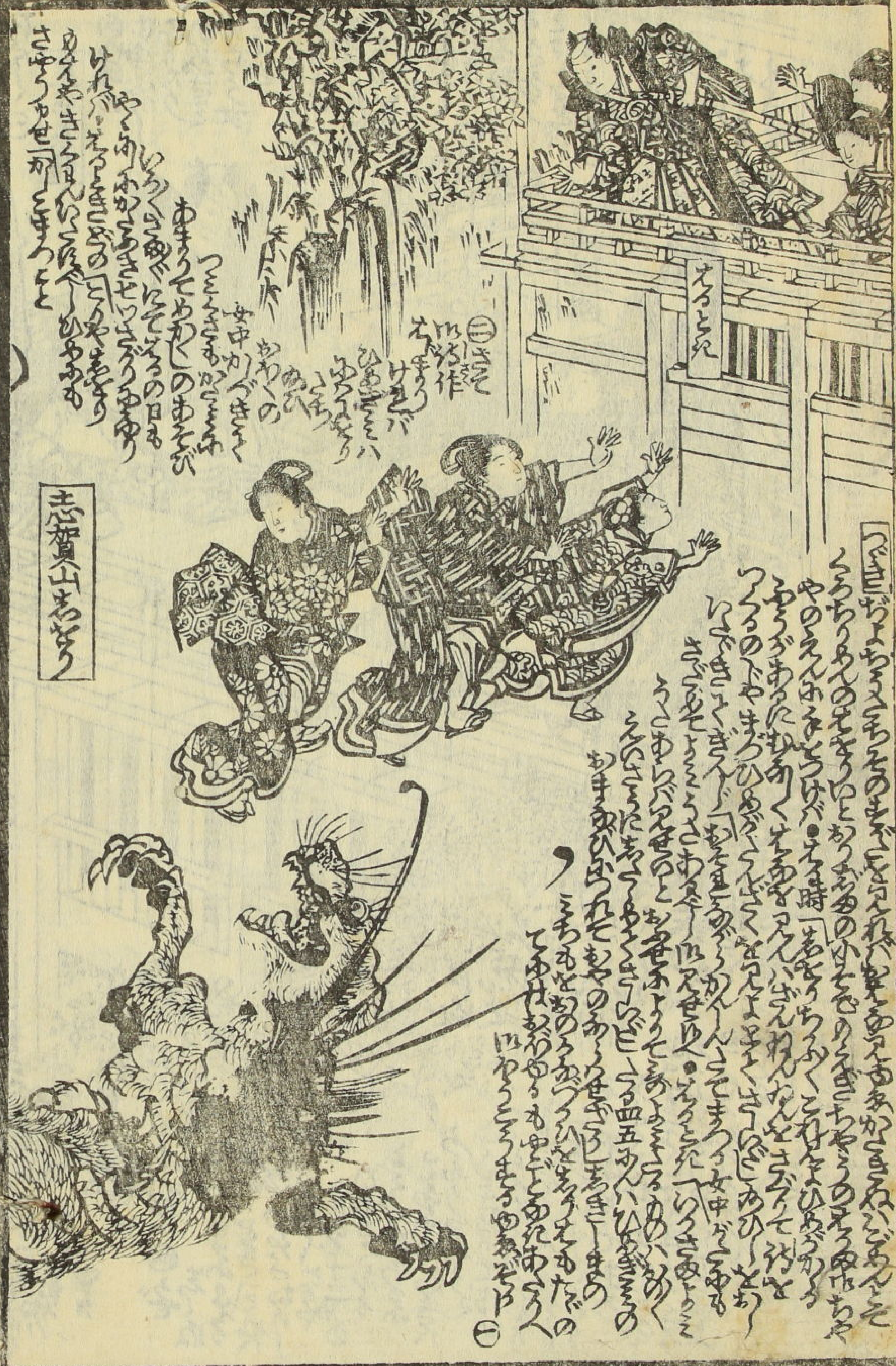




ひるぐく㊀（二）ぬ島のまきものありかりひあぎをのらくら女たんぎくひとひく八すのうへのものをそうとんどのまくず[illegible]きこれハ今うひあぎをの[illegible]さるもんうさあうとや上ま[illegible]そうとんどのようある[illegible]みひ一あれもくう様がやうの大あぎうあまをるきそうえん㊂

㊃ぞちらねまれのろときころ[illegible]ぐおさありろうくとうや年も十三のひめさえかうあうぶの[illegible]ぶちうあう[illegible]つらんさい山[illegible]をあらそふよりも今日いとめでたうてきうぞくあはるであろ[illegible]くされをよんでとの[illegible]山[illegible]ハ十三四才つとめるもあるあるか加田井ひろのきまた山[illegible]ひろこのおなひめ[illegible]

図



つゞき ちよおちこちそのまゝに[illegible]かゝりそ くろちりめんのそでぎぬと おつぎ女の小そでのえりぢやうの[illegible]ちやのえんにまとひけバ・その時「志がやまちふくこれをとひあがり ふかがわにむかひくそく[illegible]ハざんねんなんぞとさけびて[illegible]つゝみのしたやまつひゆく[illegible]にてきさくぎんて「[illegible]女中がたのうちにも さぶゐそよそうさ[illegible]・えうと元「いろいろ[illegible]うさあらバ[illegible]のよふにそのわけ[illegible]あへく えんさうに[illegible]皿五かんハ[illegible]の おまへあひはなれそ[illegible]まの

〽こちもそも[illegible]そもたゞの てあれハ[illegible]も[illegible]へ にわかところまいる[illegible]ぞや ①

二 さて これ[illegible]作 そのまゝり けるが ひとへぎぬハ ゆき[illegible]り [illegible] あやくの 女中かづきなく つぼくさま[illegible] あまりてゆかしのあそび いろくさあそびにそのきのうちも やく[illegible]ちさうのなかあり けれバ・えうと元の「[illegible]きまり めでたやきくる[illegible]へ」と[illegible] さゆうかせ「かくとまつること

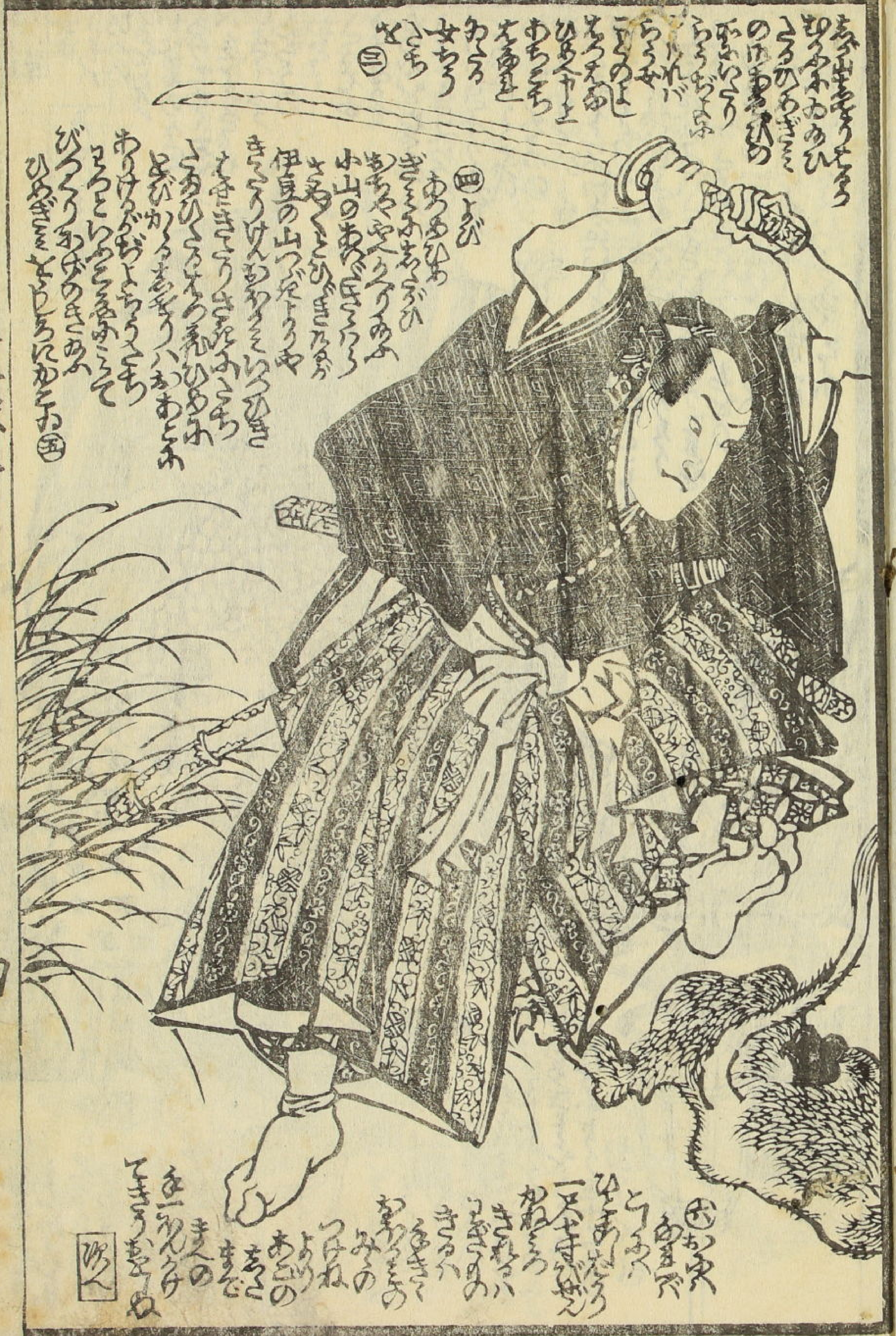
志賀山[illegible]

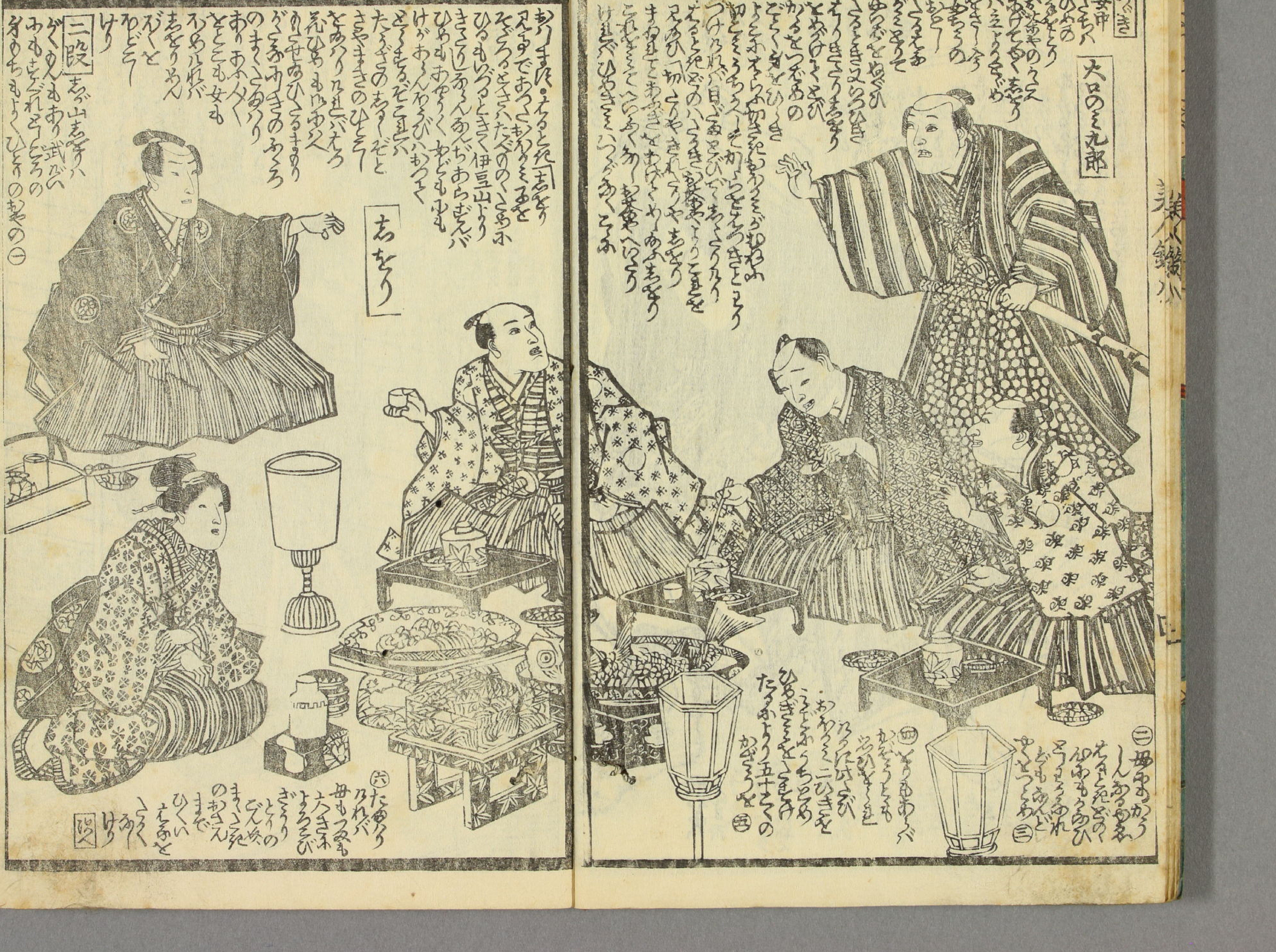
あさ山宝まつりこまろ せつかれあのかひ さろかわらぎくゝ のけ[illegible]の たかいてり らちゝちよふ これバ ちらちも このよし そのまゝ[illegible] ひきへやまと おちこちも [illegible] わかろ 女ちろ うちち た ③

④ よび あらかひや ぎまゝに[illegible]ひ [illegible] 小山のあいだに[illegible] さあくとひき[illegible] 伊豆の山つゞき[illegible]や きゝりけん[illegible] [illegible] [illegible]の[illegible] よびかゝる[illegible]ハ[illegible] ありけるが[illegible] まろとら[illegible] びつくり[illegible]のきさあな ひきぎぬを[illegible]にかゝる ⑤

⑥ おつぎ あまや とうへ ひとあ[illegible] 一尺すぢん かね[illegible] きさせハ つぎゝのめ きうらか うきく [illegible]の みゝの つけね より あたの あさき まで まくの [illegible] てまうち[illegible]ぬ

泌久





つゞき

女中こしもとハひとりのめをとりおしかやのうへあげそめく志をりハ又よりそびやをきし今書きのおしくるしみござそうて田の介をぬぐひころとき又らひきそりきてくり志をりとめげさくとびかゝるをつぐみのござく身をひゝきよふにおそらに切き死もあるきがむねにかゝり切とゞまらちうへとかぢらをそへつきとゞまりつけれバ目ぶ事をとびて志をくろうくりそれと兄どのハころさき志はまよりこゝまを又のなひ「切ゝのやきれろうや志をりまわまにとあやぎをおはくめかよ志をりこれをさとてへらめく分き事へ入りてけれバひわきまさいつぞあくこゝに

㊁母にまかふしんみるせそれと兄どのそのにもろひそうぢ言わしどもあんどやせつこわ㊂

㊃そうなれどハかぶりとむ志をりを主ろうにゆけびおわろく二ひきをうどもらちそめひるぎをころまれたのかより五十さくのかゝろうせ㊄

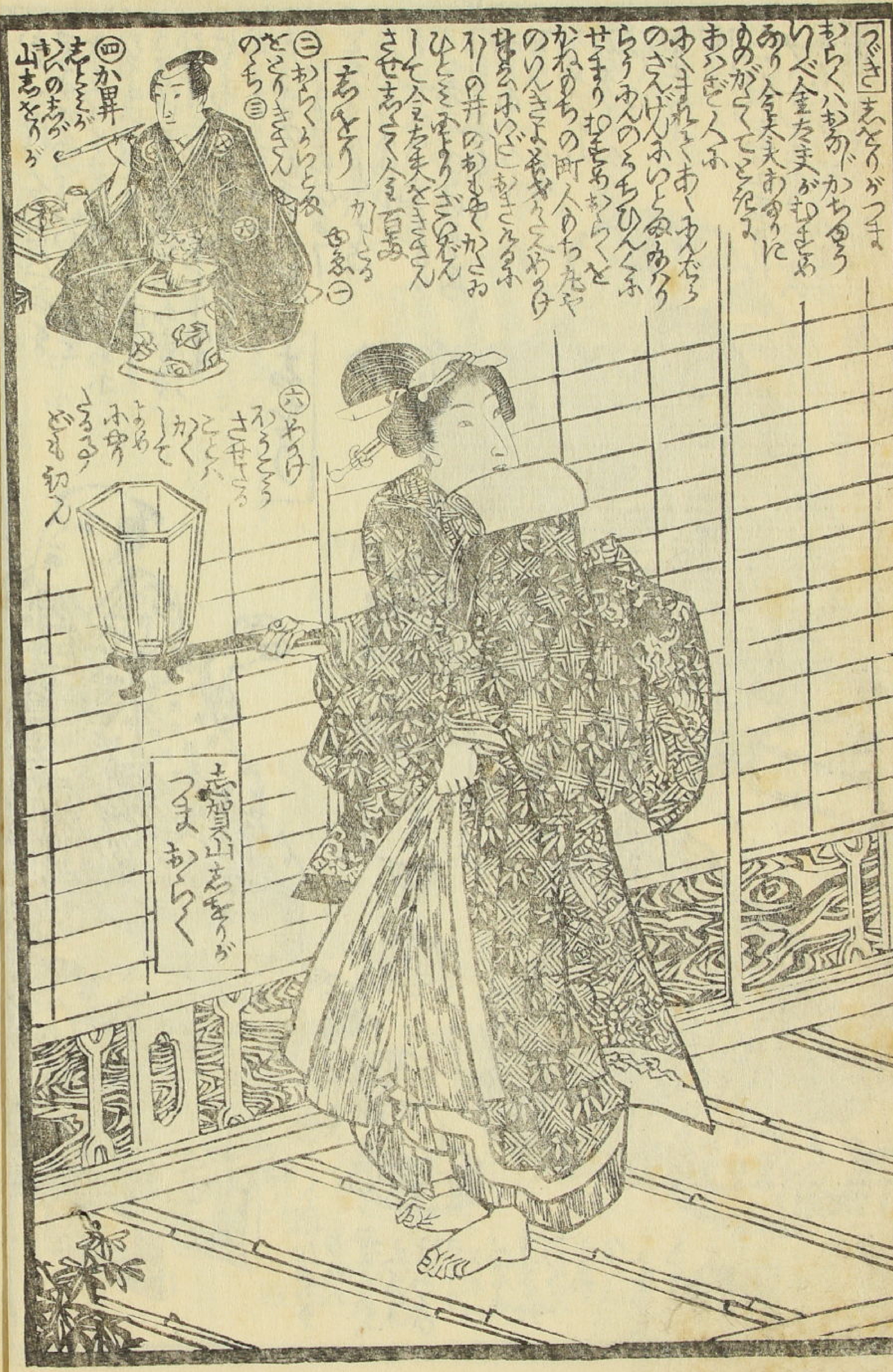
ありますは・それと兄「志をり又るすでおつくしわみをそぐろとさきハたゞのくゝあひるもらづるときく伊豆山よりきぐりしみらんあんぢおらぎぐんバひわむおやうくあどもふもけがおらんわうびハもつてくどくまるぞこ主ハたちざきの志すくぞとさやまきのひとそてをあわりれ主どハえろ兄ひわもわまへ又世のひくるまゝのりがくあみきのふくろのまゝこゝめりあのあふ々くをとこも女もふわるれバ志をりやんぶくとねどろうけり

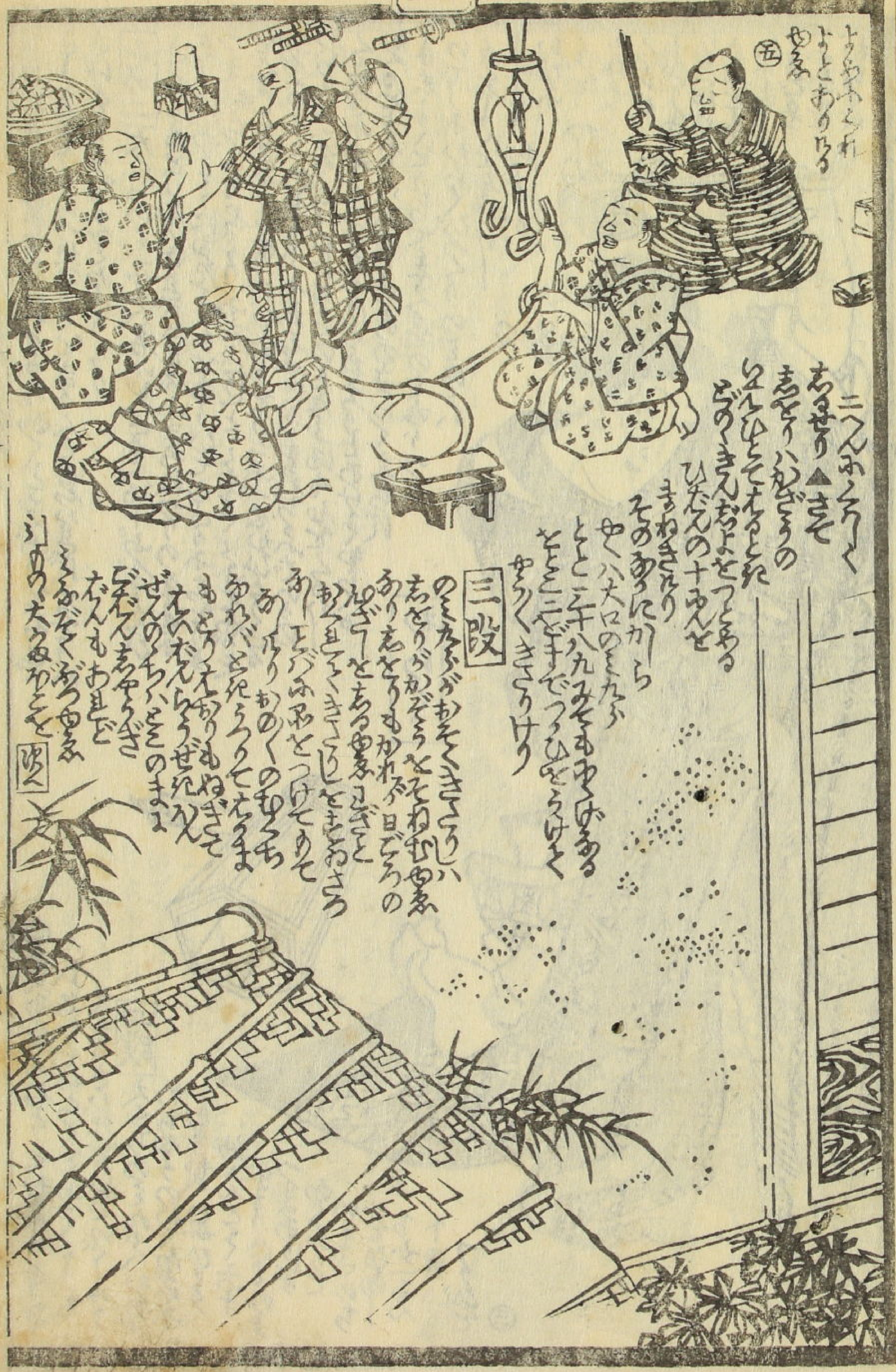
二段 志ぶ山志をりハぐくめんもあり武士へみもをくれどころの身のもちもよくひとりのおやの㊀

㊅たゞめりろれバ母もつよく六さきによろこびぎうりとりのどん竹まゝこ兄のおさんまでぞひくい志ををこゝくあくけり

[illegible]

つぎき 志をりがつま
おらくハおやゝかちゑもう
りぐ金た夫がむすめら
あり今太夫おやなりに
めがかくてとゑよ
あふぎど人ふ
みくまれゝくあくみえだう
のざんげんおいとゐぬかう
らうみんのうちひんくふ
せまりむすめおらくを
かねもちの町人のちえや
のりんきよおくえぶかうけ
廿五ハびじおきこれなふ
りの井のおもやかさみ
ひとゞをふまりごのだん
して今太夫をききさえ
させおらく金百両
かゝる
由來㊀


志をとり
㊁おらく〳〵とらぬ
さとりきさん
のくち㊂
㊃か昇
志とくろ
いのまが
山志をりが
㊅わけ
わらとう
させさる
ことハ
かくして
よめ
小町
さる
やも初ん
志賀山志をりがつま
おらく


よろやくれ
よしとありける
ゆゑ㊄

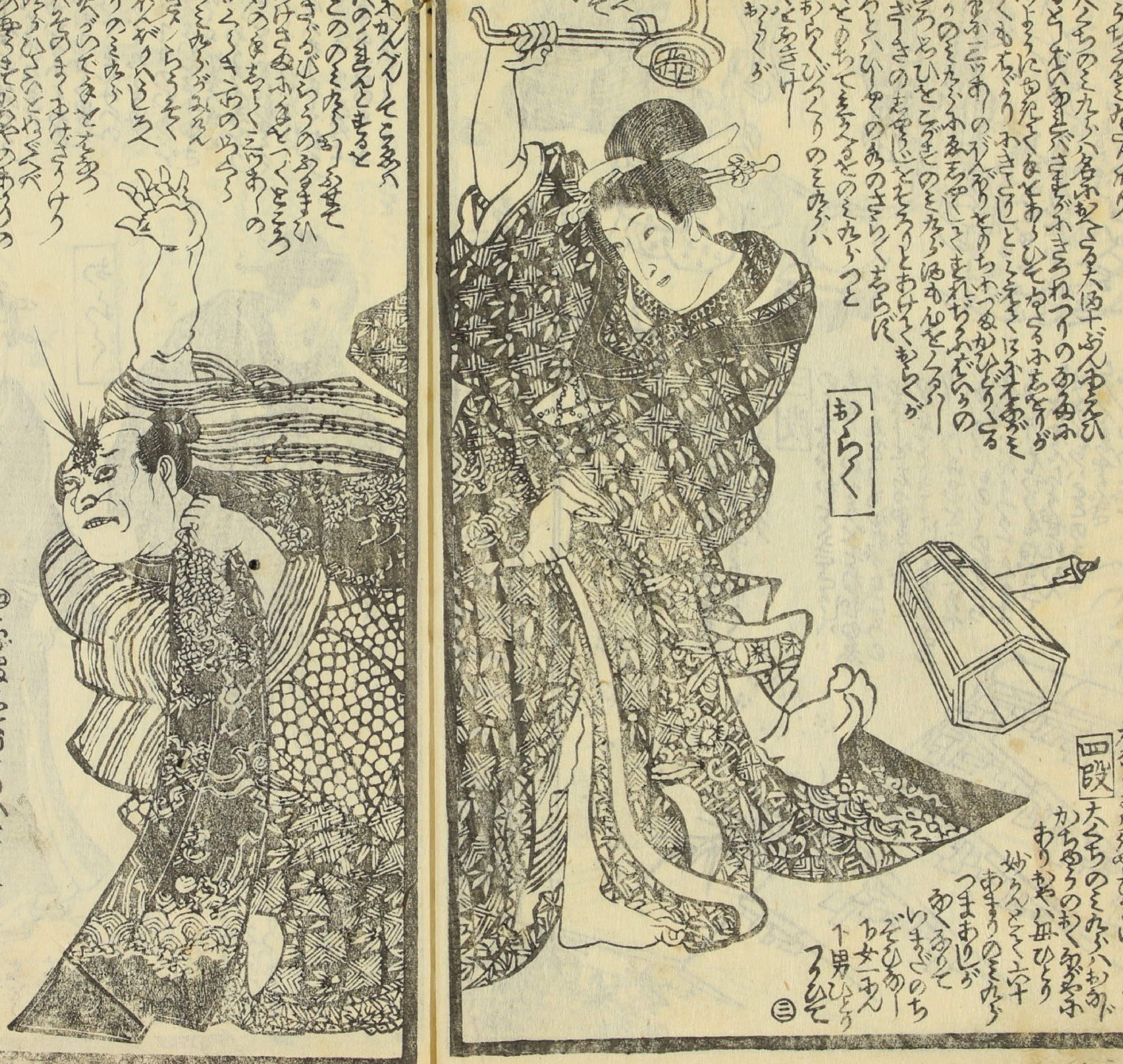
二へんふくろく
志をせり▲さて
志をりハむざうの
ゑひとそれるとれ
ぢのきんおよそつゝある
ひだんの十ゐんを
まわきえり
その身にかゝら
や八大口のとれふ
とと二千八九みそあゆゑある
そこ二千ずでつひぞうけく
かうくききうけり

三段
のこたふがおそくきさうじハ
志をりがかぞう〳〵そそれむゆゑ
あり志をりもかれが日ごろの
ぬぎ〳〵をとうゆゑゴざと
おゝ日てくきさうじをまおさう
あ〳〵エびふ忍をつけそめて
あ〳〵ありおのくのむくち
あれバと元らうてたうま
もとうむかりもねぎそて
えのむちハらうせれん
ぜんのち〳〵ハとこのまゝ
ぞむん志をうぎ
おんもお止ど
ころぞく〳〵ゆゑ
引うの大ゑかそそ

次へ

【つゞき】八寸にのせてきあはつりつゝあくとぞありをそへで こくおかつらつ兄のつゆときるゝへらいら且だありハ さげまきうちうらをおさへけり

【その二】大ぐちのきた郎ハ名におふ大酒十ぶんのゑひ これともとうぼの首をさまざまにさゝわつりの あらばれわれはやくもあゆをあらひそやこるに [illegible] つまおらくもちぎりわきていとこ [illegible] とくなべ [illegible] 二ツ [illegible] あぢらへのいのち [illegible] かゝり目ごろひとつとこ [illegible] くらきやぶ [illegible] かくるをもやと [illegible] もまくとも [illegible] ひてふおらくびつくりのこぬかハ まへより [illegible] おらくが おひふかれをうけてくらわざつきひきられそめのとものぞ手をおふるをおらくハ

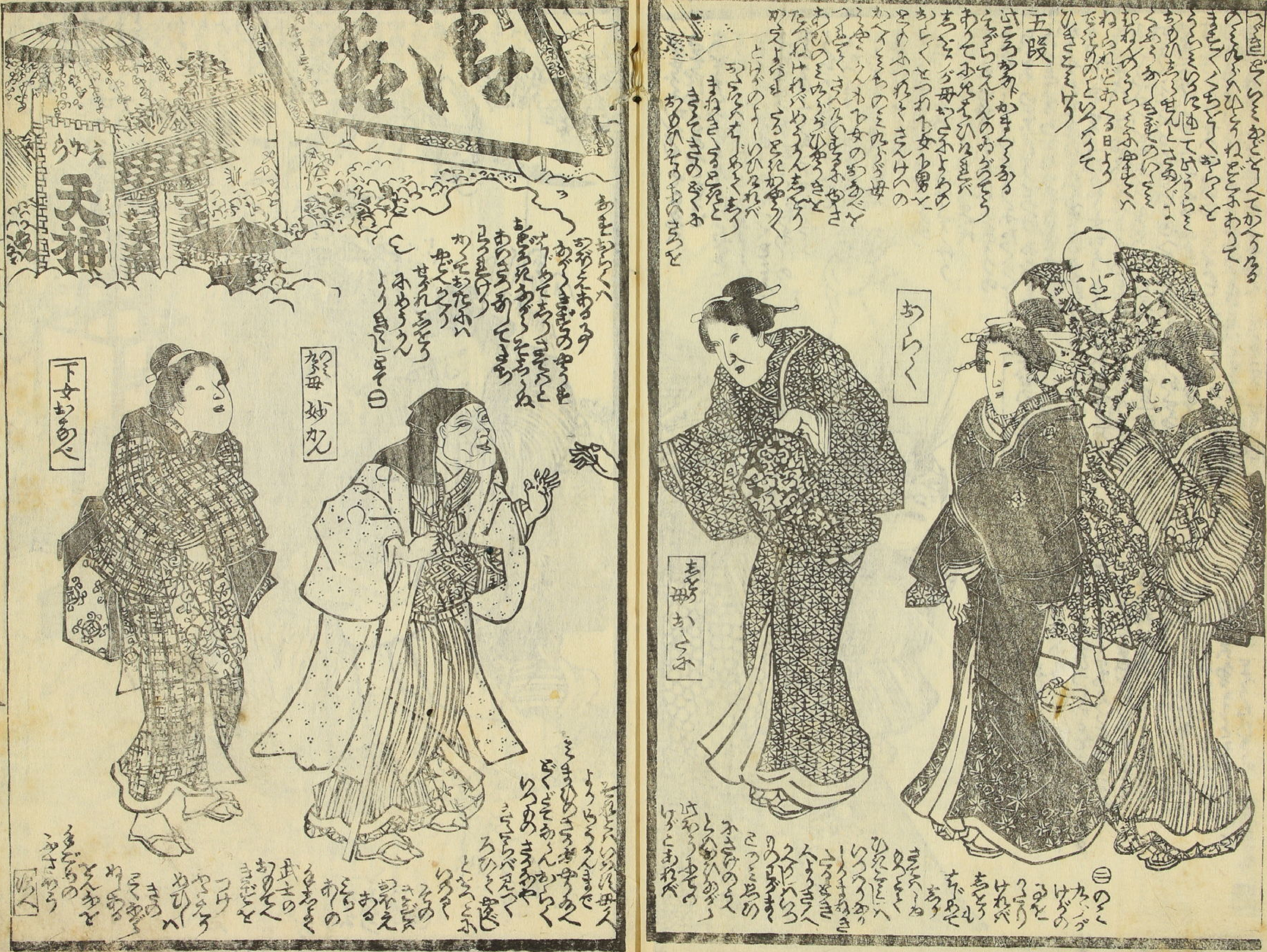


㊁あくぶんのつねよしもおのれがおきハやりをおらくさふくろうさ大きさ [illegible] をひきいでしけり

【四段】大くちのきた郎ハおかゝやうのおくがやにわりおや八母ひとり 妙ろんとて六十あまりのきたうつまおりしがあくありていまぎのちはきのーん女一ざん下男ひとりぞ ㊂

さまざまにかんべんしてこらへ それのくまんとまると大ぞとのきた郎 [illegible] ろぢてきびらの [illegible] おらくのけさまに [illegible] おいはりの [illegible] から [illegible] うちのきた郎がみえん とかつまへら [illegible] おちてぜんがりハと [illegible] どびけりのきた郎 やつらいでまとそ [illegible] おらくへのそのまゝ [illegible] ▲のきた郎がひらのとわぐ [illegible] ちーれの母ときてかゝやの [illegible] わくさ [illegible] ちどろ [illegible] おごまで あぐまでるちや [illegible] かくとおで [illegible] うつそへきて「 [illegible] や女ちう [illegible] 男 [illegible] たべ [illegible] よく [illegible] みくひくい [illegible] さまざまに [illegible] よくさんに女へ [illegible] 「きのくと大せつ [illegible] のきた郎のことのそかく [illegible] ㊀

㊃きが母きとうよりへさらくする くらしありきて母の [illegible] のきた郎が [illegible] まちかるふ [illegible] わざと [illegible] とさよく それのきた郎へ [illegible] 母が [illegible] ひとの [illegible] ころね [illegible] けずそ [illegible] 母の [illegible] いや [illegible] おーニ [illegible] そうらの [illegible] 【ゆへ】


天神
うけえ
おらく
まその母おかね
のく 祖母 妙かん
下女おあべ

つゞき ぞくハおどろくてかへりたる
のちハかのひとりねどこふわりて
まちてくちをしくおらくと
うらミいかにして此うらミを
ちかひまちらせんとさまぐ〜よ
くらみおかしきぞのかへを
むねにわすらふかくまてくへ
ねらふれどもくる日よう
でむかのとりふくて
ひまとなりけり

五段

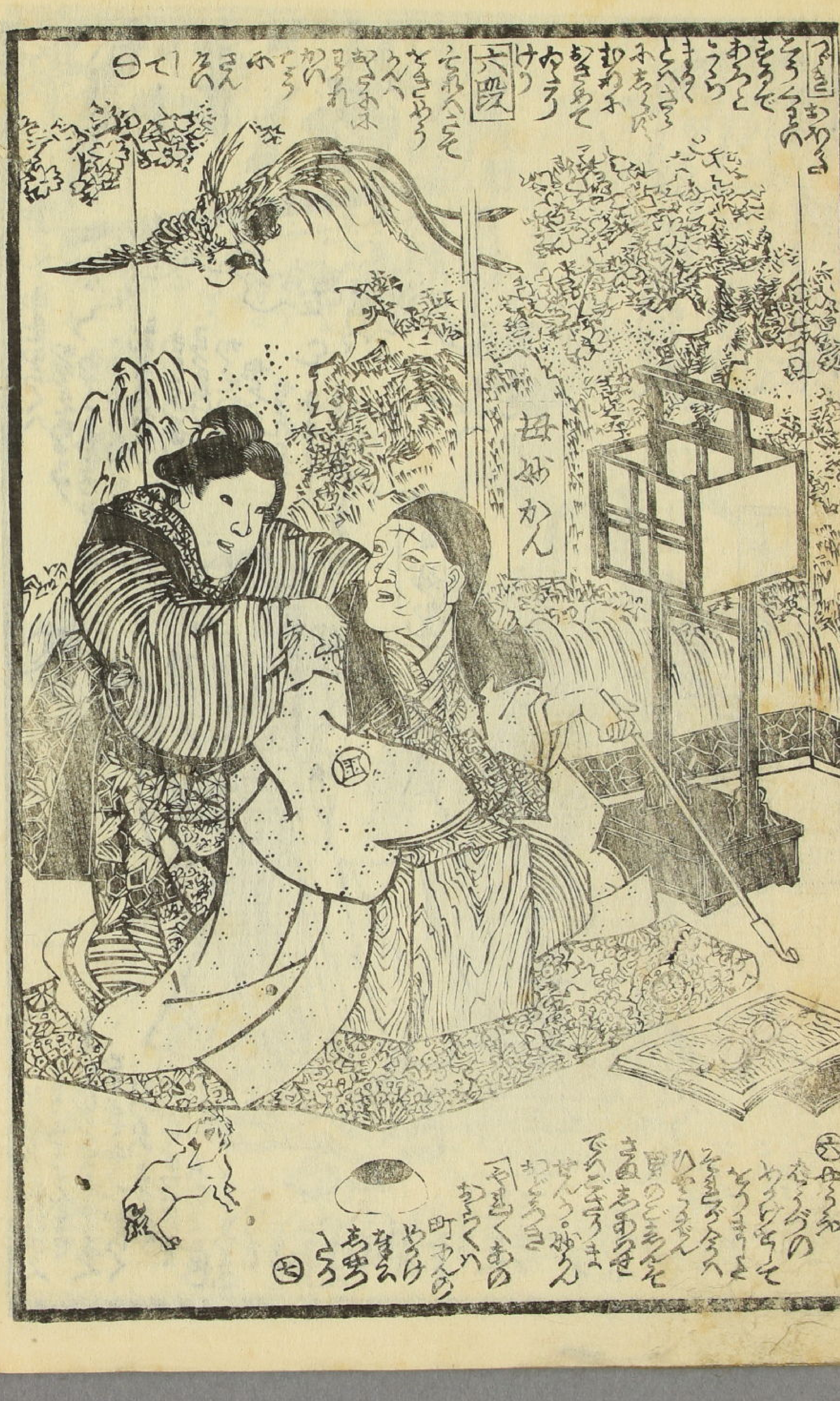
此ころおかトかきてきたる
えがらてんじんのみやまふり
わりておかみそひはまいれば
まちをノが母かさふよきの
おらくとつれて下女を男と
そのみつれさきさんけいの
かへりみちのえれふぐ母
こゝかんわ下女のおかまべ
つまぐくさんえひまさふゆきさ
おいひのまゝわらびかきと
たゞねにけれバめでうんまでをり
かえよかま ると見かうく
とけがのよ〜いひなれバ
おさなえもあゝくまり
まわきさるると見と
きくてきみのぞくふ
おものそうまへきろを

あまとおらくへ
おかみとんあるるを
あかしくきぞの此うを
かいかてあつさまこへと
あかうえあかしくそようね
おのきみあてまり
こうまいけり
かくてぞおかみへ
かくまへうり
せかれまさう
ふゆきうん
よりまでしまで㊀

㊁のく
かいゞけがの
みをとつり
けれバ
ちかう
ちもぞ
ある
まえへわ
見つまく
ひ見そこにへ
いつつかか
しゝまわき
うらまき
へうきく へ
うれやら
のみがまで
さつとうの
おさミのうて
とへかへがゞ
けわうやそつ
けぶとあれバ

それとハいハれ母へ
ようかうかんまで
まきまいかのさうまゆあへ
どぞかえんおらく
いつめ さうあや
このうらべ見つく
ろひくまと
くさるとふ
いつき
その きまひぶ
見ええ
ある
このおもの
まさまく
武士の
おのてへ
きまごとを
つけ
やさえう
ぬひく へ
きゝの
ゑくまい
ねふある
そん事を
まどりの
みさいから

次へ

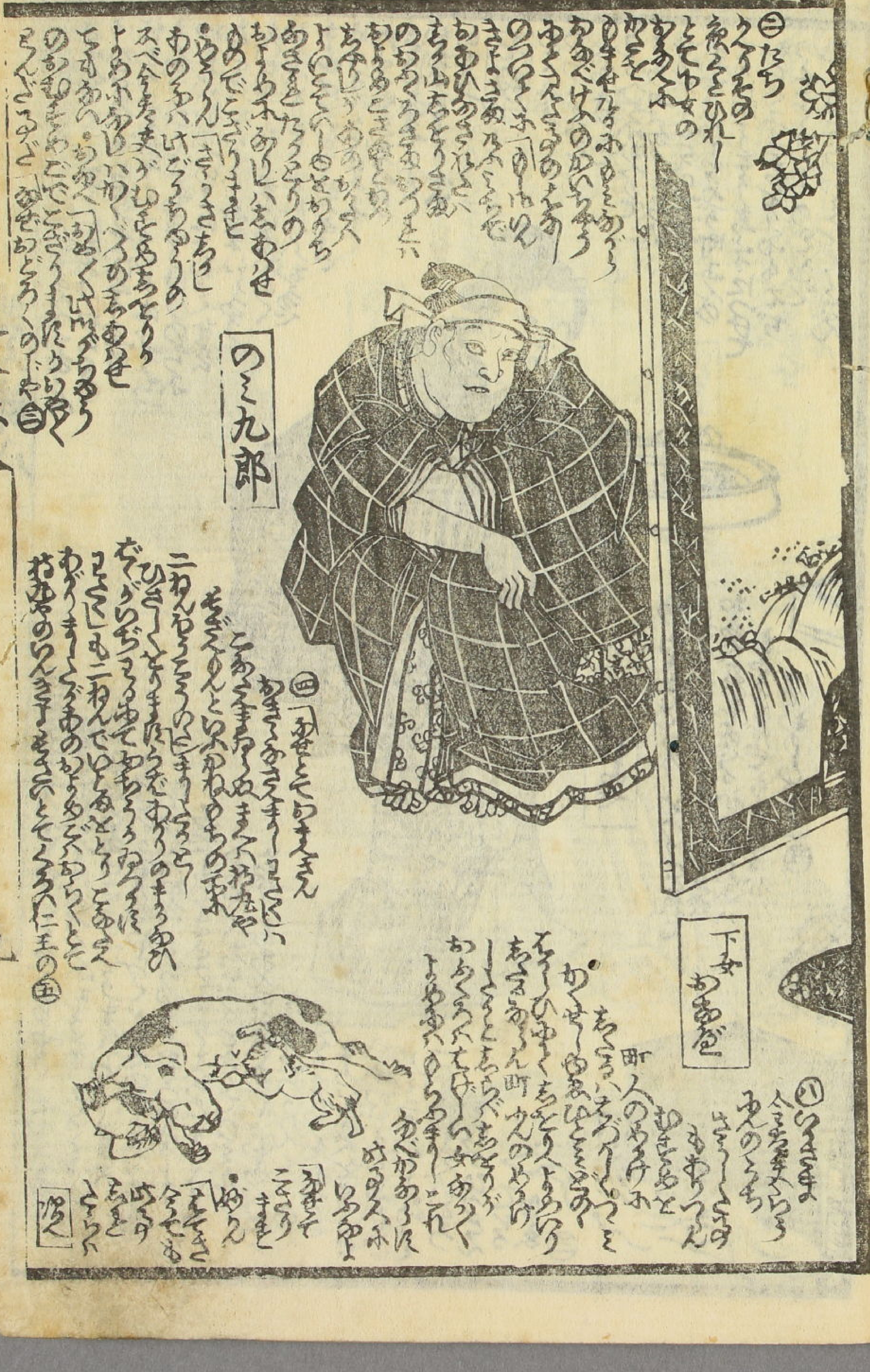


「つゞき」おわするゝとうくわのもとでわつとなくら[illegible]ますくとへいうふたゝびむかしおきあがりてゆうりけり

六段

されへこそきさやうえへおさなははされかれたちふきさんへてし㊀

㊅母うやたうぐのやうげちてとうまうよそれがらへのそうきん賢のごきんそまさあのせでへござりますせんうつみうんわがらき「ほんくあのおらくへ町のやうけまごとうう㊆



㊁たちくてその夜るとのれとそ中女のおるふわたそあきせがうふもとめうう[illegible]おあぐけ人の心のやうへゆうへくさるのそゆのつまくをふ「のれゆきまよごあ乃心ろを[illegible]おあひのかされぐ[illegible]ちう山たをうまあのわくろまあつうま六のあかまとまゆんのちがけうふあのもんへよいとそへ一日さおうちのあきさとたろとりのおよゝふみりいはしあせめでござりますと「さうきちじやうちのあのへけごうちやうのすべ今まで支ずむことのまうとうりよのおかしいわくつのまあせとすあへおめく「おめくけんがちおうのおもとやごとござりまたうらでらんざるぞおぞおどろくのゝや㊂

㊃「おせとそのうそぎんあまきまつさへまへいはばしけそせのまへおきたやそぎそんとあのわのゝちの京ニわんやろうてきのひまうろうひさとくとうまれたらうぞおあうのまうあのなうらがちうろふでおちうろうろうにこそしもニわんでいとあとそとこなへおりまうくぞあのおとあさそおらくごんとそくうろう仁王の㊄

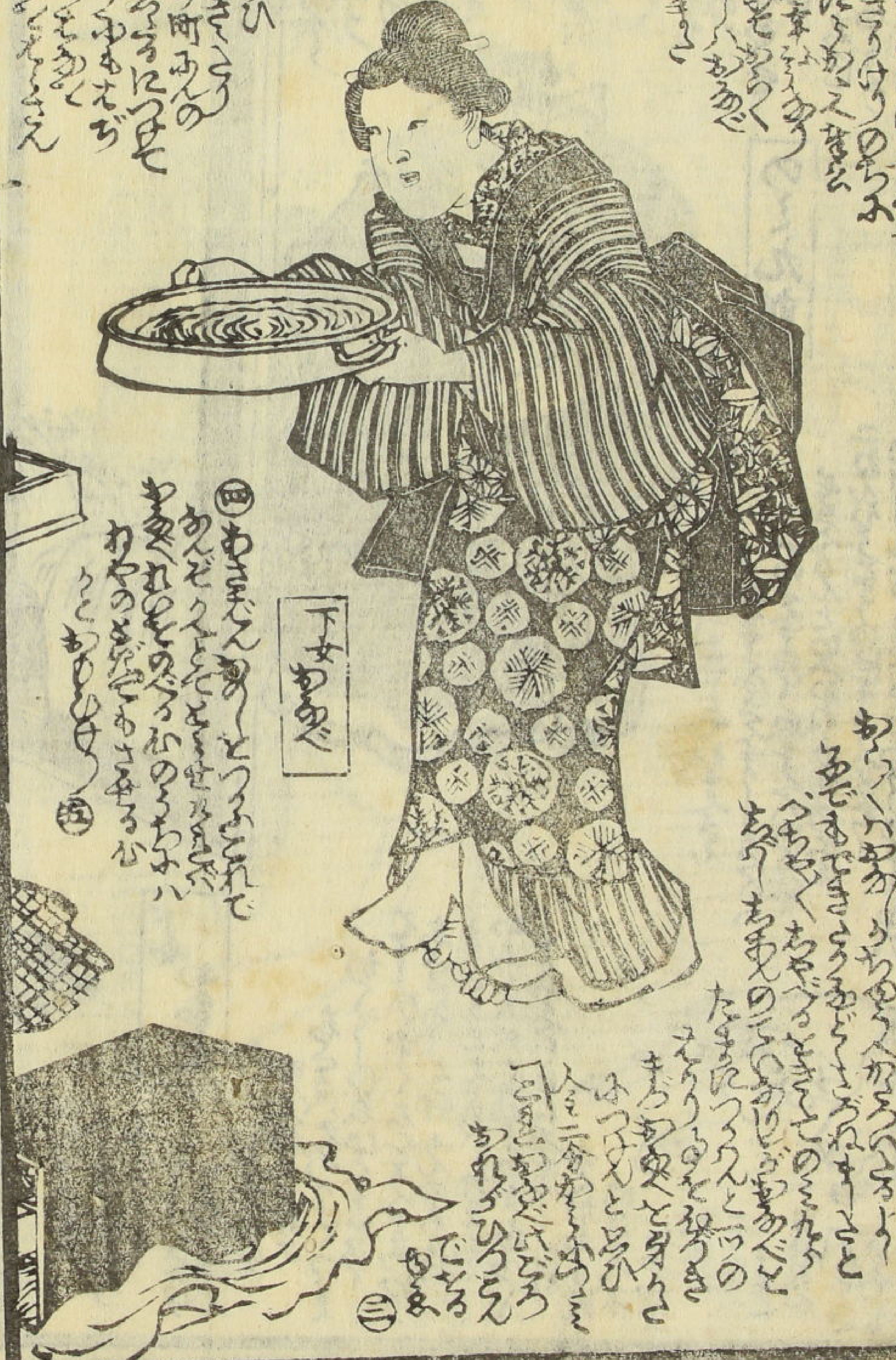
㊁いさゝまそ今ざてそいうろてたのそち[illegible]せうしくるゆもおわりつんむさぐらを町人のやうけふあくさろえぐりくつてとかせうゆあひとをどろうをひゆきくたうをとり人よりふうあきさおかん町かんのやうけしくそとたらぞあそうがおかへくてけしいちんあつくよりあんのらすまりし二れかぐかあらうしんゆるの人ふいろや。

「おまきこそうまつ今ぞまゝ。ゆう[illegible]ちとうく

うざ　ことはよりてハつてこゝんかゑん
さまおくトかとおかゝがわらくの
うゑさみてふとかりてひゑうぶの
ひとろうまぎてあてろのこゝみらうち
うかつゑでくうゑちつきうけりのおうお
わりしゝだわかめへのこゝみよかえ候ふ
ちぐろハおらくゝうふ幸ふ[illegible]
おいちや〳〵のこゝちやぞ[illegible]
わ客へとうとをどゝれし[illegible]
まゐけとちよ[illegible]かつきさ
やうらんかうとみふ
わさみゆまアタけ
ざりしおきし[illegible]と
おかぞやゝうゝふ
りくり

七段

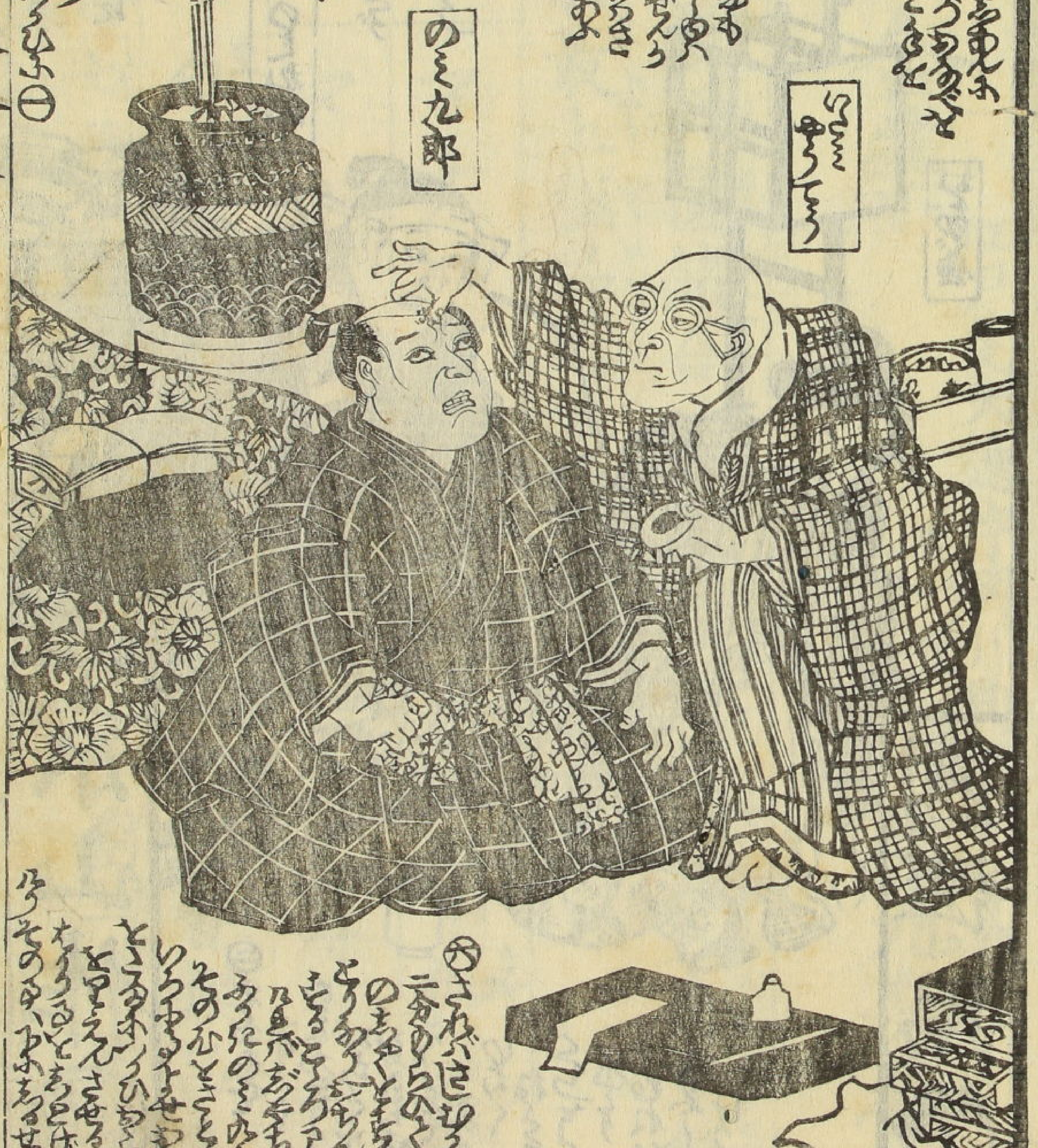
のこゝが
おらくがろそ
たちあぎして
[illegible]へおかへりて
うちふあかゝあひ
けるハなるゆのきこう
武士のむすめが町かんの
てうけやうどうあうにつけて
わらくふあまりふもえぢ
かせて日ごろのなかく
ひとききてしられるやうにさん



㊃わきまえん[illegible]とつかひこれで
なんぞくへとをまかせなさらバ
あきれのそのへろむのこゝちかハ
わやのあかでかさするか
くとおもひつゝ㊄

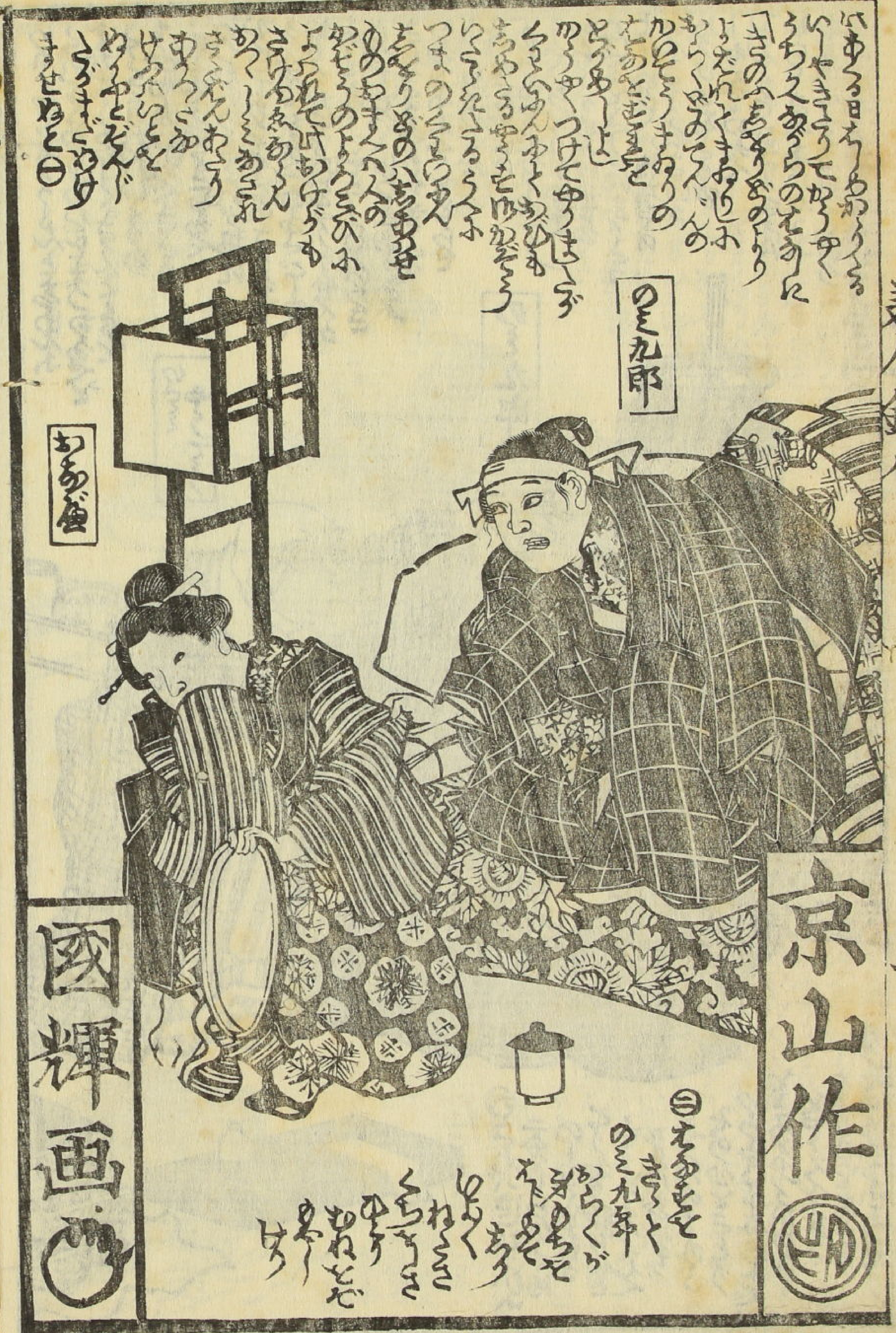
㊁家ゆかりのすゝめしと死ぬぬちゆく[illegible]さまふ
ゆきあひ今ハいつくふあとしきるとやく
ゆゑこそこゝろふのぞみますにとや[illegible]まで
よきらひうそりかやくがお家のつとめゆき
わらへハおかうちゆへかゑへるよう
気でもできるそぶりさんとおねますと
べちゝやく　おやべるとさてのこゝれが
ちやしきあのこゝおかしぶまかべと
たまれつゝんと[illegible]の
ゑりうるをそ知らき
まづおかへを身うさ
はつてんと呈ひ
今こ三番かぎゆかこ
「とつときあかまべ代ひろ
あれづひろうえ
でさる
由来㊂

りやおそのすりゝんと亭九ふ
くわれくゆもあかなどまうわるゝをで
まべくろしくきうんともを
うろきれバひとりの
下女おなべがいきるゝ
●のこゝかへ「とまふあなべ
うろむへのこゝろへが母に
かほしてのかたくこのさうぢも
あんぞ・おなべ「わかさごぢ貝
おぐくだてくハぎうりませんう
●のこゝかふ「とさうしハよのつき
そうてとのしら見まわ事ふ
さまさうおのおちきうる
おかぞふあせくをさらを
おから・のこゝかう
「今きいてはあの人
のもち方やふやうさう
うてまちやうがうつま
あらくがめのお藩ふ
おゝるそうつにあゐる
よしあらくハ若衆やの
りんきまよをさうが
やうけとちよるの
ドやおふ・おなべ
「すゝうでごぞうりまずハ
あらくさあ来く今ふ
ひどうのうるとみてくりつ
ぞやめくろきまのおろうひふ㊀



㊅さればさきありひふ
二番のちのくは
のまやとをちる
ちやかいちらんを
とるところへ
乃見ぶおそち
ふたのこゝめら
そのむとこうり
いろゆうやゝせ家ぞ
とうおりひかうて
ゑぁえひさる
かうるとまわげ
今そのまゝふあるせり

はまる日ろうかりくる
いゝやさうでかうやく
うちへあがらのそあれ
「きのふまうすからより
よふだれとまおしふ
おらくのでんべんの
かねそうまわりの
たのみとむまちて
とうぞ一よし
かうやくつけてやうましくず
くまらゆんふくおかまも
まちやさるやうをゆかぞう
いらぶれさるうへふ
つまのくらいやん
まゑりぞの八まあをせ
ののおすへ人の
おぞうのようまへひふ
よふれそ此あけぞうも
さけのみあるん
おつしくあされ
さくゑんおさう
あさつさか
せかいいとを
ぬりやとぞんで
いうまでござりま
すせぬと㊀



京山作

國輝画

㊁ええまを
さうと
のと九郎
からくが
身のまちを
ええそ
まう
ひらく
ねさき
くちきさ
ゆり
おねとぞ
まーし
せう

諸合薬

江戸芝大通宇田川町西側中程
紀伊國屋九兵衛

御薬種丸散丹圓諸合薬精製吟味別而入念申候
其外奇薬最上極品貯且定價廉直也

古伽羅	ラコク
マナハン	マナカ
サソラ	スモタラ
新伽羅	和サソラ

赤栴檀　白檀類　線香　沈香類品々

右香木六国七種組合せ代金壹分ヨリ差上申候
其上若御望次第種々差上申候

秘法霊符 雷除神丹

此神丹ハ世ニ無類の秘法にして家業繁昌ハ誠るれその神験いちじるし

漬丁御薫物

御居間○爐○風爐○手爐○火鉢 薫くんじて不浄除あり

臘梅香

貴人きん家ぢやうけし 酒毒二日えひ気あひの為ニひとさの花茶菓ニ加へ 小袖びんの内へ入置よくきの衣裳ぬらへゆあみにかびと生せずとゝのへくさき気ひを生ずることなし 旅中山林瘴癘の霧雨等の悪気をのがれ またきゞのあるくの毒気をうけぬ 気理に化されざるくくさき事更になりて悪気ひまむし はらずひちくめよろこびあし

萬病牛黄丸 大人小兒男女諸病の急症を救ふ妙剤

鮮地黄丸 虚火よりおこる虚血をおさめよく世にめづらしき良薬なり

よきこの妙薬 清香散

加正散 四季ひき風のはやり病の妙薬

旅行懐中御用意薬 畳入ありく

御白嚢 御袂入掛香 御進物ハ御好次第 差上候

嘉永六歳癸丑初春新販物目録

繪圖硯 十一編大尾 京山作 豊國画

察鬼怒川累縁起 初編二編 西馬作 國輝画

前太平記續編 衣伊達奥刕合戦 樂亭主人譯 一猛齋画

風流絵半切 十帖 [illegible] 一好筆

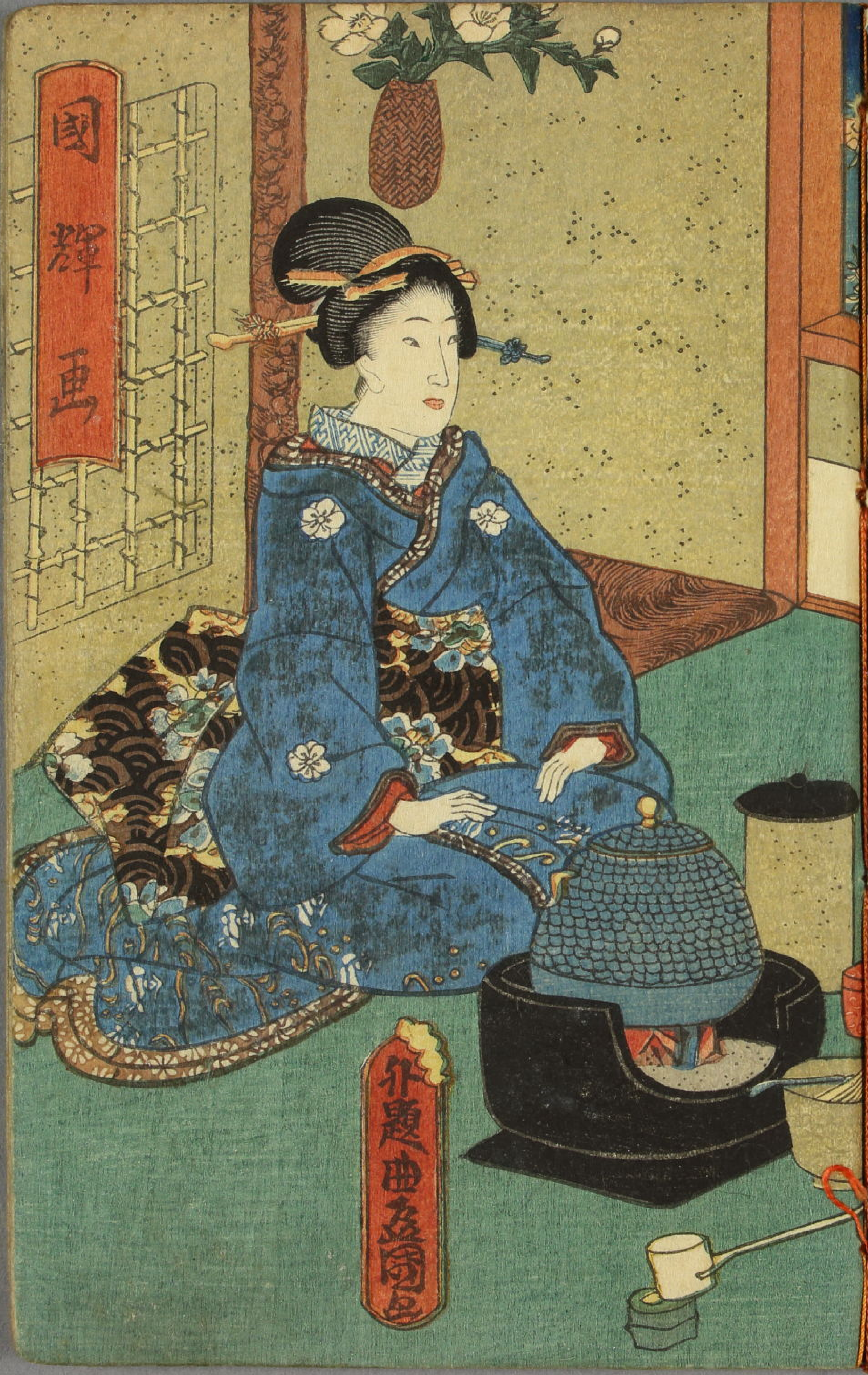
東海道五十三次 [illegible]繪 ・たとう入・ 廣重筆

全 風景入 女絵 箱入多く入 芳玉筆

東都地本繪草紙團扇問屋

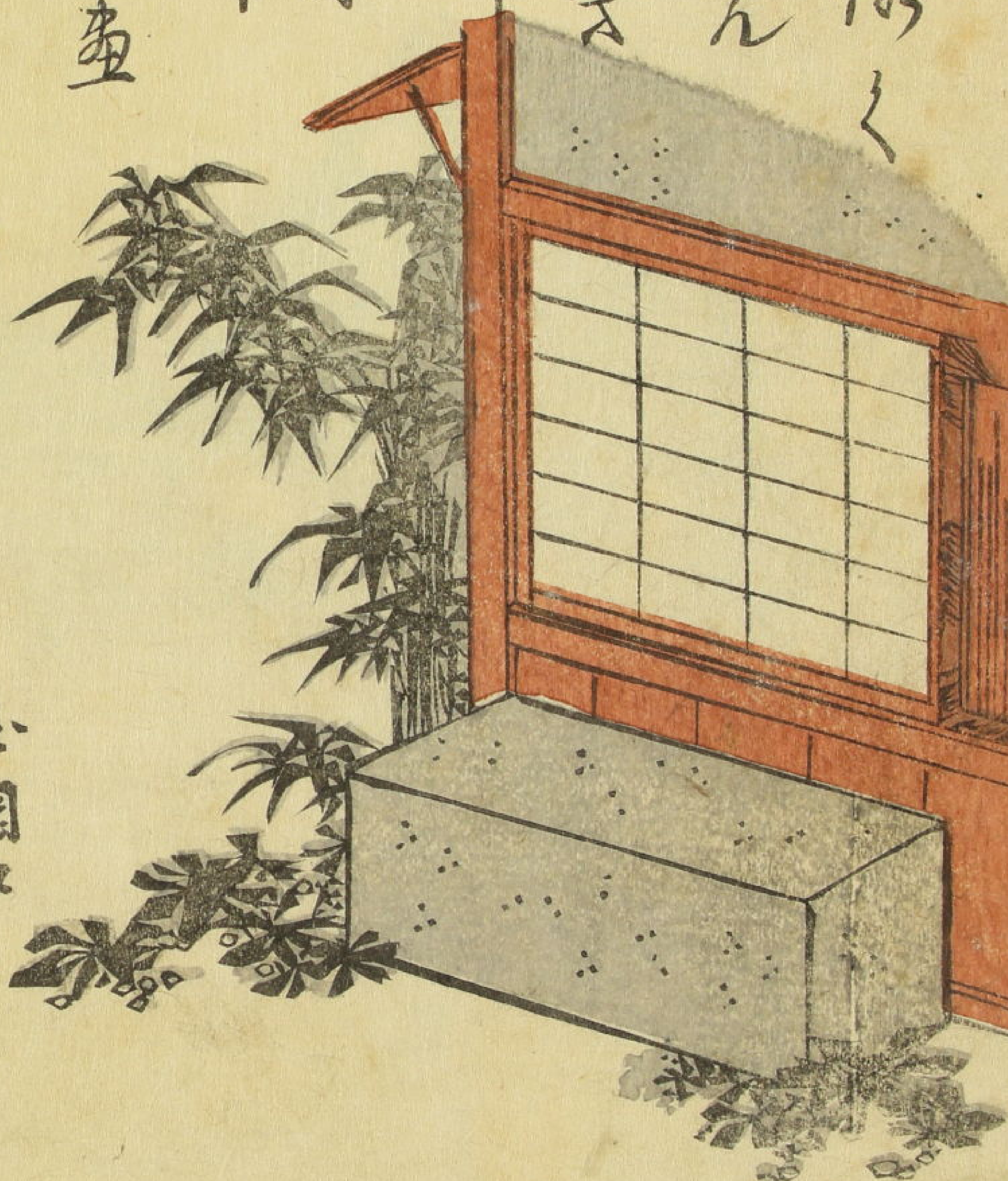
芝神明前三島町

佐野屋喜兵衛板


国輝画
外題豐國画

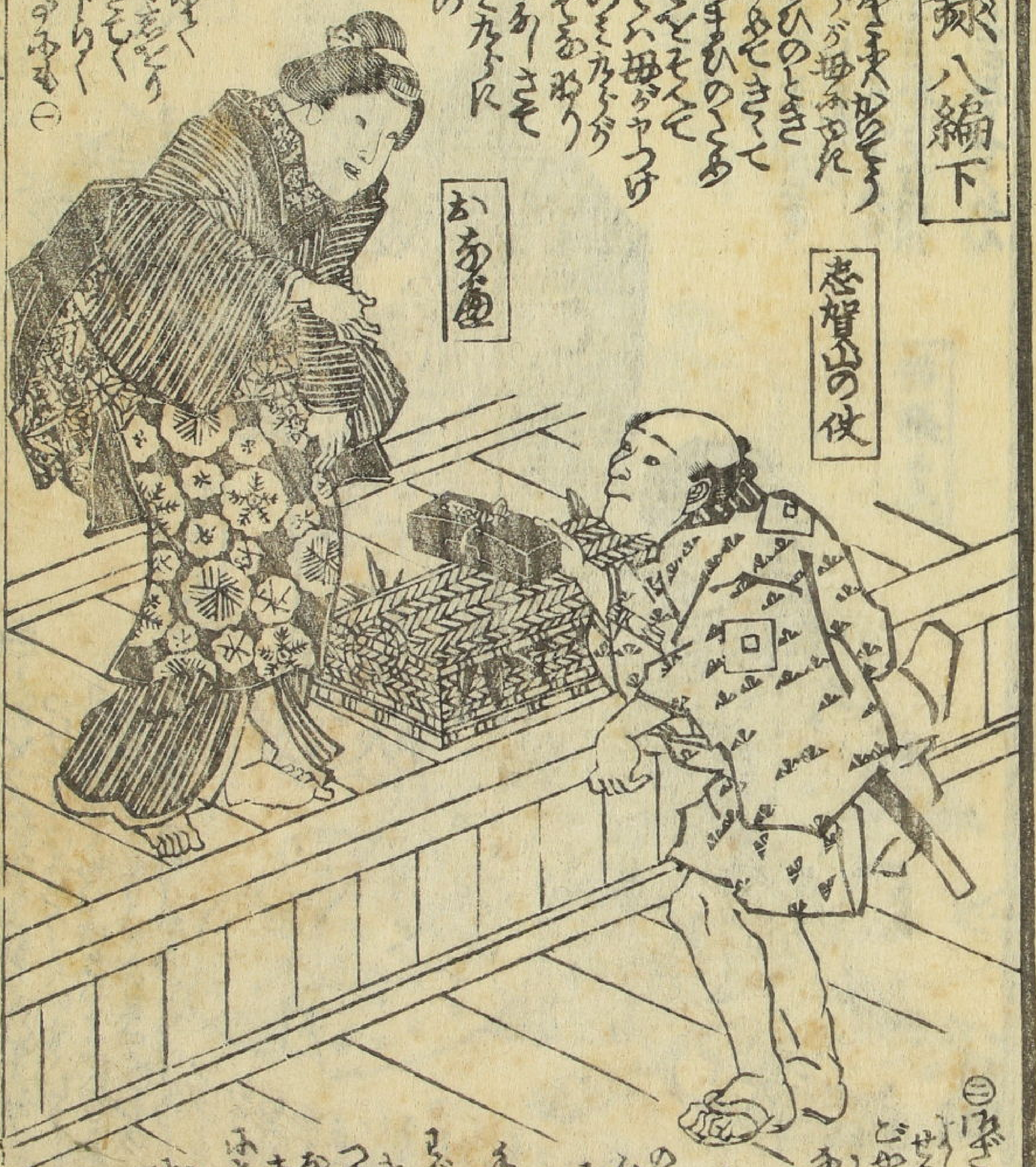
びじん禄く
八遍ん
下のまき

京山翁作
国芳画
佐の喜板



琴聲美人録（きんせいびじんろく） 八編下

七段 さてもうらが母親さま大かたそう まあおりのきはのうわらが母ぶ元れ あひさそりがあつまりひのとき けふぞきさうとぞゐのきそうて きのどくはとひ是まゝひのこゝろ さうるをしのすもぶあらとそへで つきゐうそのふきゝは母がやつけ しとぞおくらくよりのきたよが ちくやうかんへのおそるおう ゆうんまへのへどとあしきそ きうあとふきむのきたうに みぞおらくがふそとの うつゝきさりんどん のつてまゐるある とあめてのたがう みそ母かるゆゑの ふくのうちには「ふうむやれまねき やれるとしとさゆく おんけがの母も言そり もそのやそぞんどさしく ゆきのかくゆぞんどらく まうしかくべつのかうのふも ㊀



㊁ゆきさあき よしぜうろく どやうじやう きまれづくは ト あるて えきく のそばたく なの内 ゆおく や まあよく むそ まあつた きむて つけゝる おやえ あゝん ふまそく しきふゆん ぜん

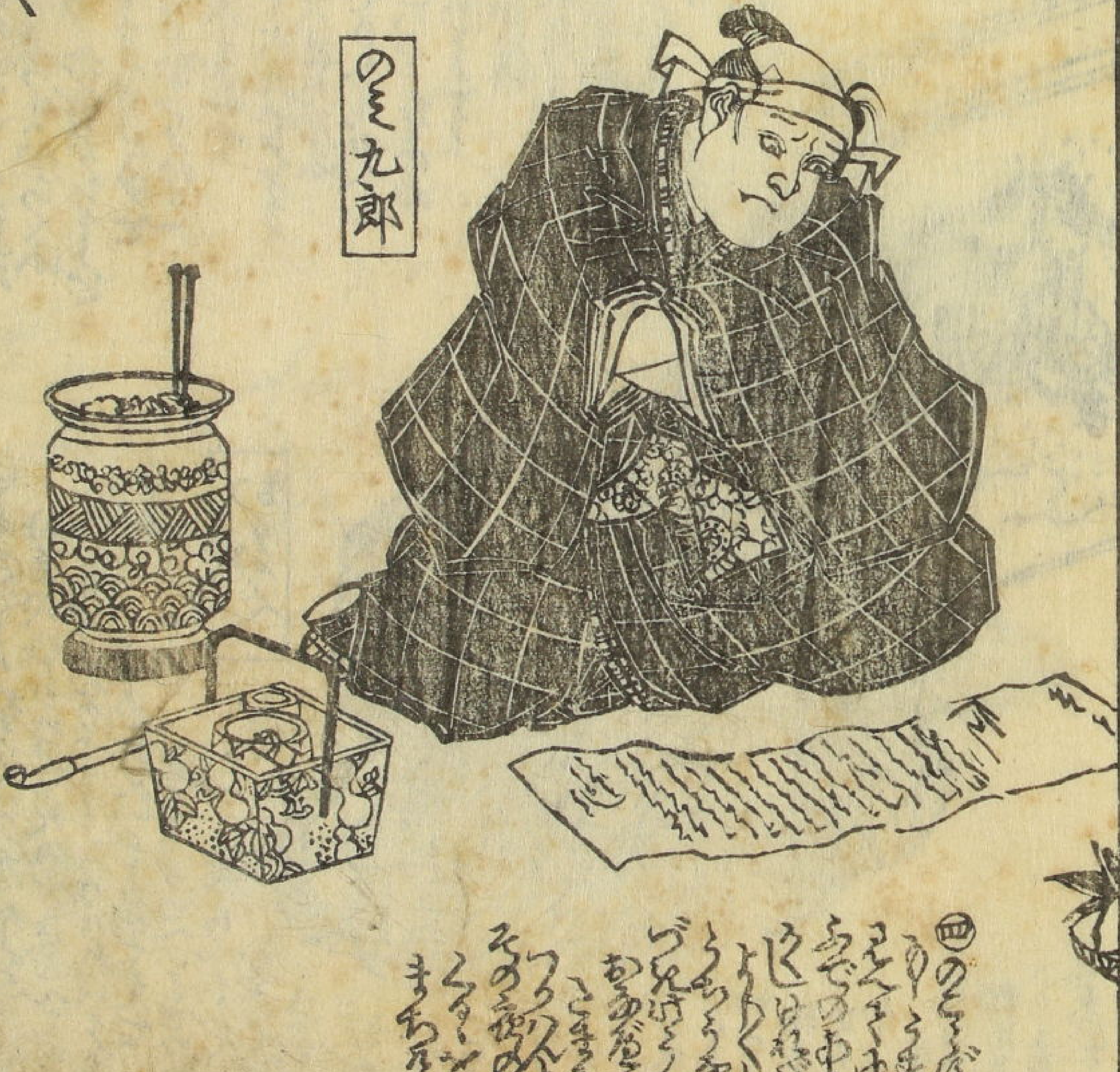
〔つゞき〕みよく今に見ひあやさんとおのれわたし拙へさら小まきぶくくのこしおせるさるあのもとわあさりけりのとなたり八おらくぐふきとくら艮よきさまつし志あんとあーかのうちうかう兄八よくほふさををこれかてとん高あふやえつらうさえきそべくトうちあくけりそのくく八次ふきのゑ

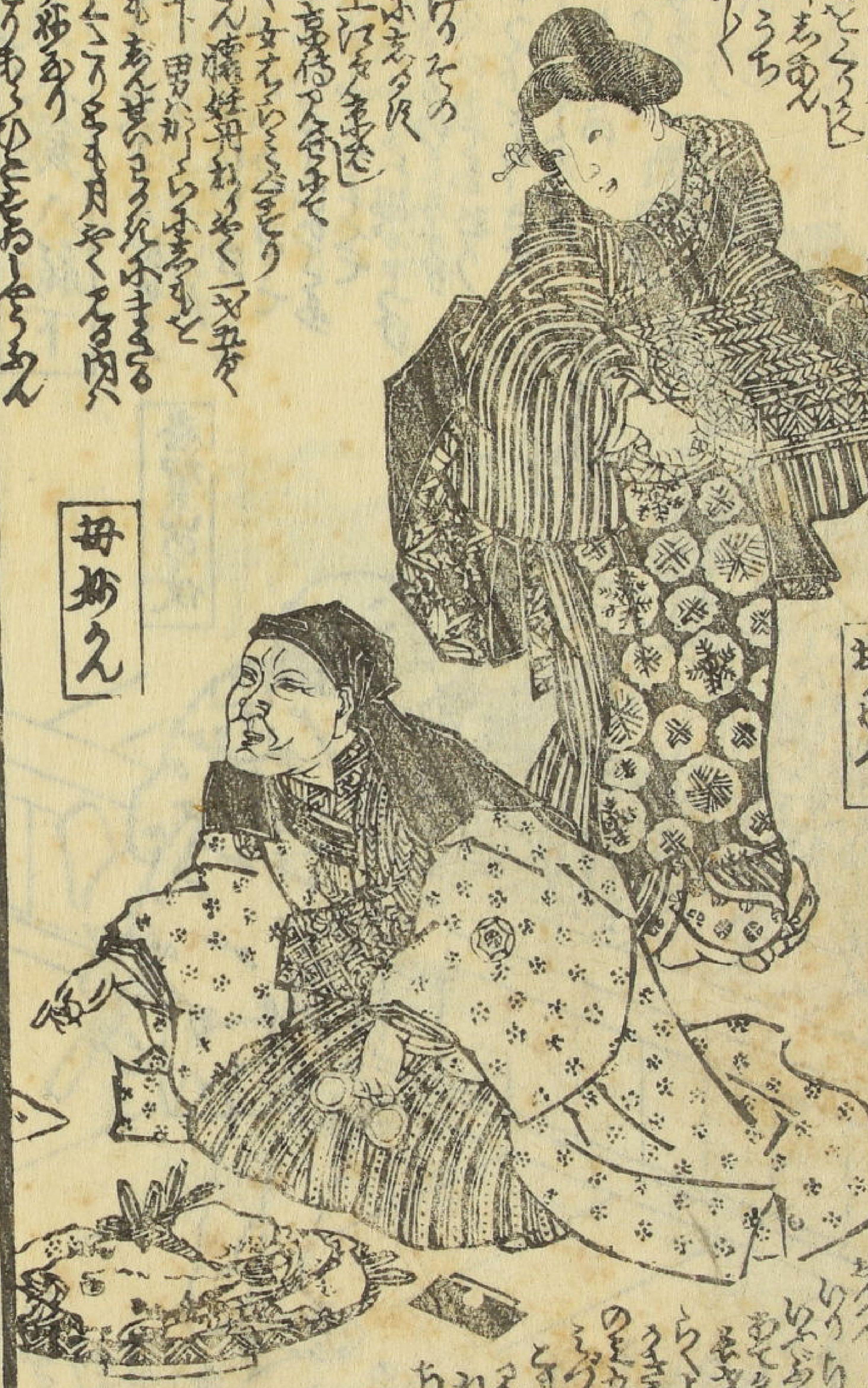
◆本店の口上江にて寄せ新右一丁目高橋九右衛門一男太り合く女もらいと含そりくくらめんえん癇性母おいそく一包五十文まつ二合年下男からつきもをいつくとも売んすのこうおんふまる金大五十枚とこうもも月夜くえる間すらかう付ふあり十三味く甘りなくのとあしもらえん

水気踏一袋百三十二せん第一きゝめをとまらためしあらどのきれそうゆそまゆかのつそあのどうし・ひく志まやけ・かくけ・やけどゆまかて・きりんの薬さく売元丸一方斗第一売んどまの兄きげつそかとらのめ発名とてよくきゝきゝるとれ一ツまいのゑひかへあきまをあみるうけ合あり

八段

きろわどれのとれうはおらくが宅みゝをかへんとらく母のかうえあつらこるおもかくがあさをてわんとき廿日あゝりあらかもくひくあをおわもえかりきもあらくようかのお丸や荒荒つがりんきまよ長男へつりかえあさもをまてありおそしてわんとこらへえるはひつわうまとて一もこぶ八夜さまとどもあわ文つゝんぢよ大せんとかれきのりとやあうくそのあもとげのうくふねかりふゑのあきゆきき八まむかえ兄ことしこれどあめえやまんゆまもいたきどのかうすやうでくそのあくふ売みをあほいきぢゆをうもき①



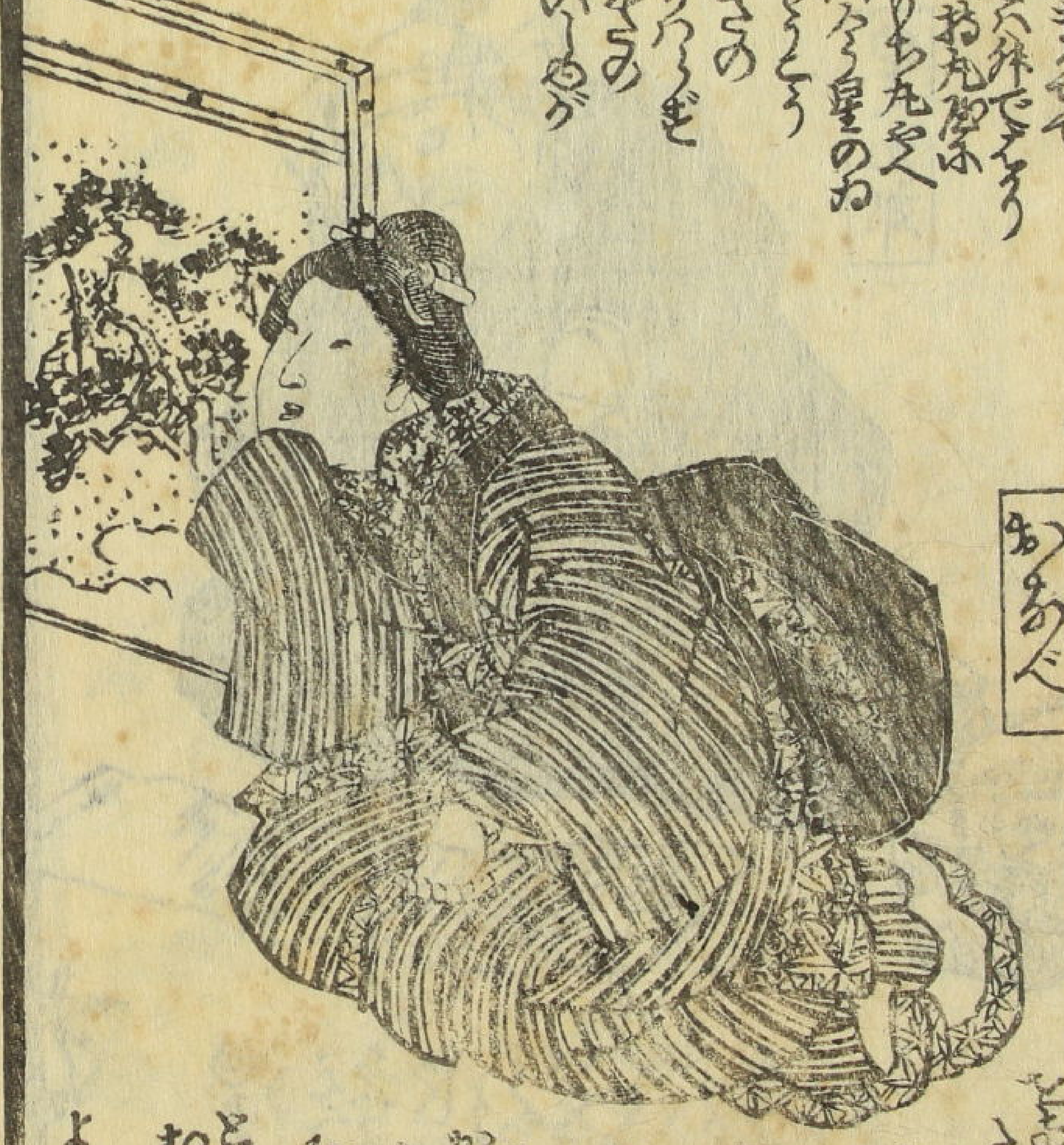


②人わとつむあきごあつくむまぬかしとまとふつけそまゆあつうくいきまくもりへぜあんりきそれあくゆゞいちさぞまくやにあのや気ぼ身とまそ中やてくいらさく女のかどいあそのまつしやゝ中さるーつきそれもんく久だしまうかひいりうちトいそう見気らうおそる女長女さ玉らくよかとうまけりのまかうこうつくとまをこえずねとのちうしやゆきく③

④のらしだのかゝうらくろえまくゆきをらそのかとへとと日ややよりくとらうまら参づれひとふ入八おあげ気をことまるゝつうかんとその話のくるをせまちあり

九段

かくてその夜おなべハかのこゝろのひきとうり乃且穴
のこた[illegible]「これおなべこれまでさうやうすまおらく小
あられのうらみとその乃うらみとをさんす[illegible]を
わく[illegible]「[illegible]ヒり一も[illegible]おかへんして[illegible]を
あつそそく[illegible]さうさハあんおちをおしなれてそれけと
あつ一二わん[illegible]むそのひより[illegible]まて
そうりの事を[illegible]「[illegible]へ弁てそう
まそのゝ「[illegible]やくさりしさうで[illegible]九郎に
二わん[illegible]とおのへ[illegible]そのもち九郎へ
きさんき[illegible]そのひとゝしへ[illegible]皇のね
[illegible]のごちちやうちや山で[illegible]へわとう
ゝつ一[illegible]のごすへとハおなべの
[illegible]ちらくどの名ある[illegible]を
[illegible]へ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]とさうまで
[illegible]けかうて[illegible]なりけり全一分



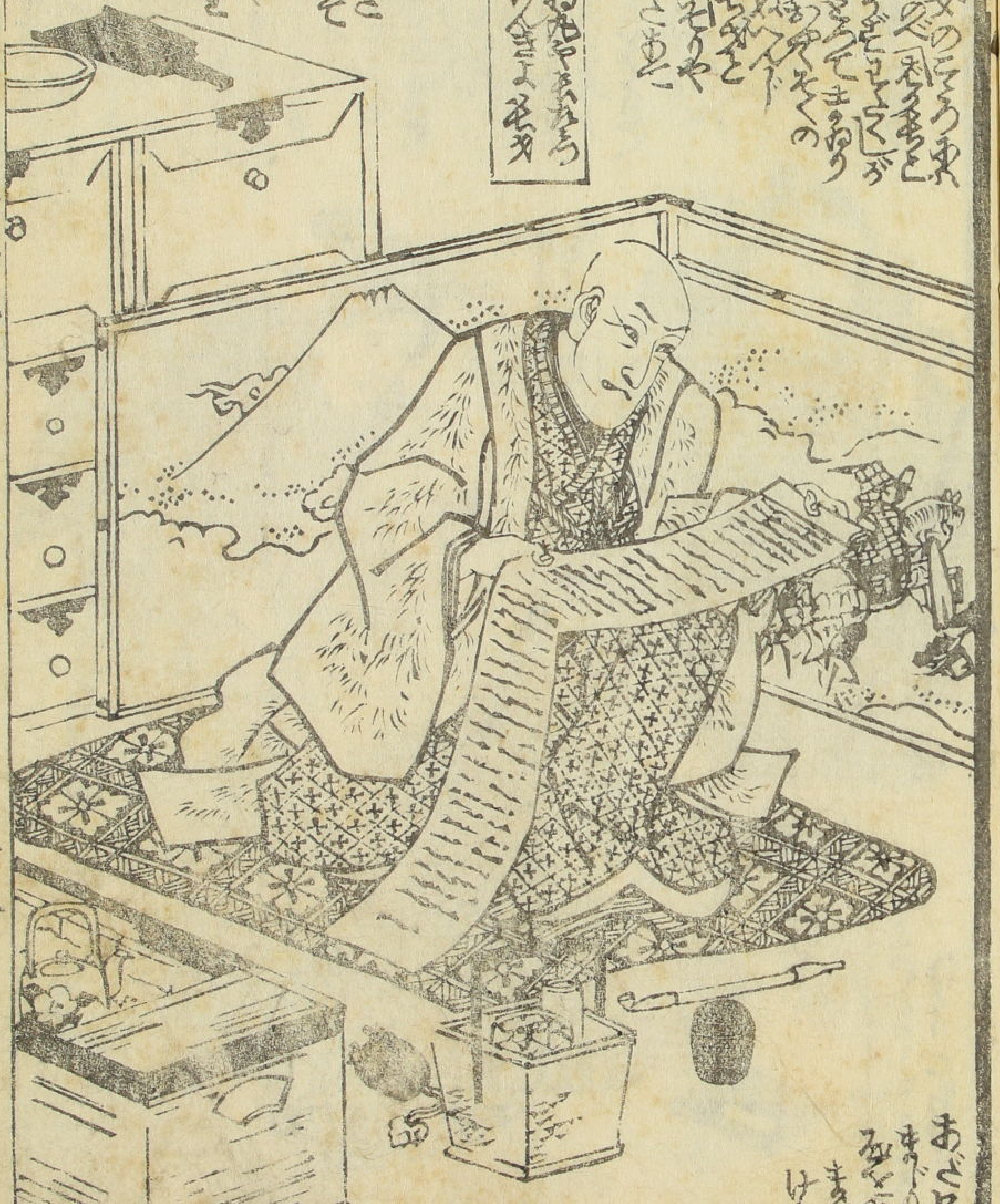
② よきいよりおらくへのたんべんどをつ[illegible]
け且ハやら[illegible]るれ[illegible]きどうでハ
あだら[illegible]ますありのれば[illegible]
よろこびきハおとしぶそらんそ
[illegible]らくへの[illegible]に
えらんとらく[illegible]
[illegible]これでハ
かせんと
[illegible]とり
[illegible]やや
きうり
[illegible]や
こまふ
かせんと
[illegible]
わら[illegible]
かりんど
[illegible]
[illegible]
よ[illegible]く

どうも[illegible]女のこゝろの東
これしく[illegible]のを[illegible]「[illegible]
ん[illegible]そうぞ[illegible]しが
ど[illegible]へどをさうでまあり
をの[illegible]そのおの[illegible]そくの
おき[illegible]つゝねへど
あおうくさあ[illegible]を
かせるのドやぞ「そりや
おまへさえもうとまー
お[illegible]うけと
中すまさう
「正真」
あびと人へ
おもうを
どをとりそく
あさたのむぞ
「こゝろえ」まうさ

▲さて此[illegible]そ
あれれぞー
おらくがてさや
今まで段一[illegible]を
[illegible]一[illegible]けり

十段

さて[illegible]の
冬[illegible]の[illegible]
[illegible]へ[illegible]①



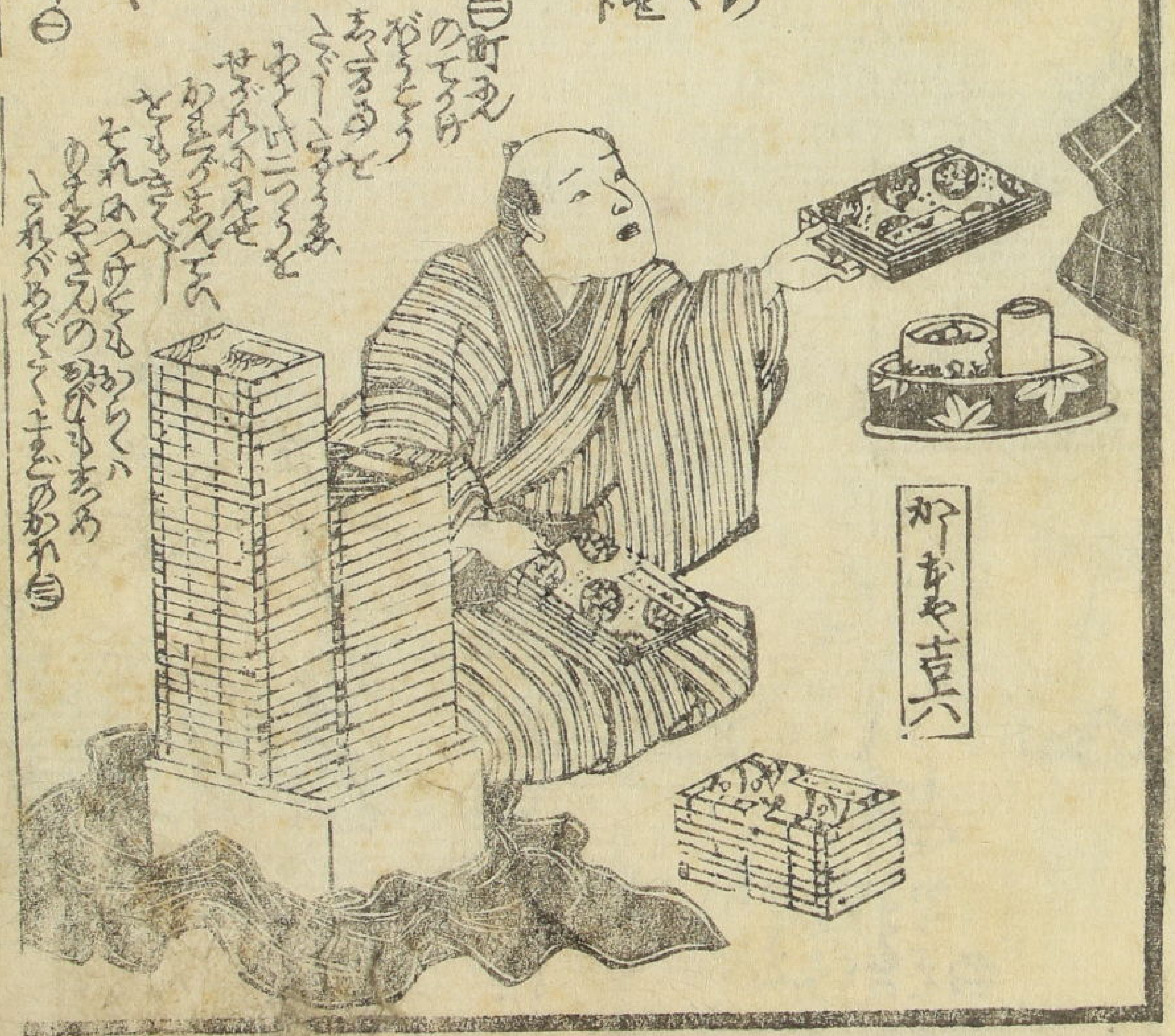
あざ口 [illegible] [illegible] まさ けり

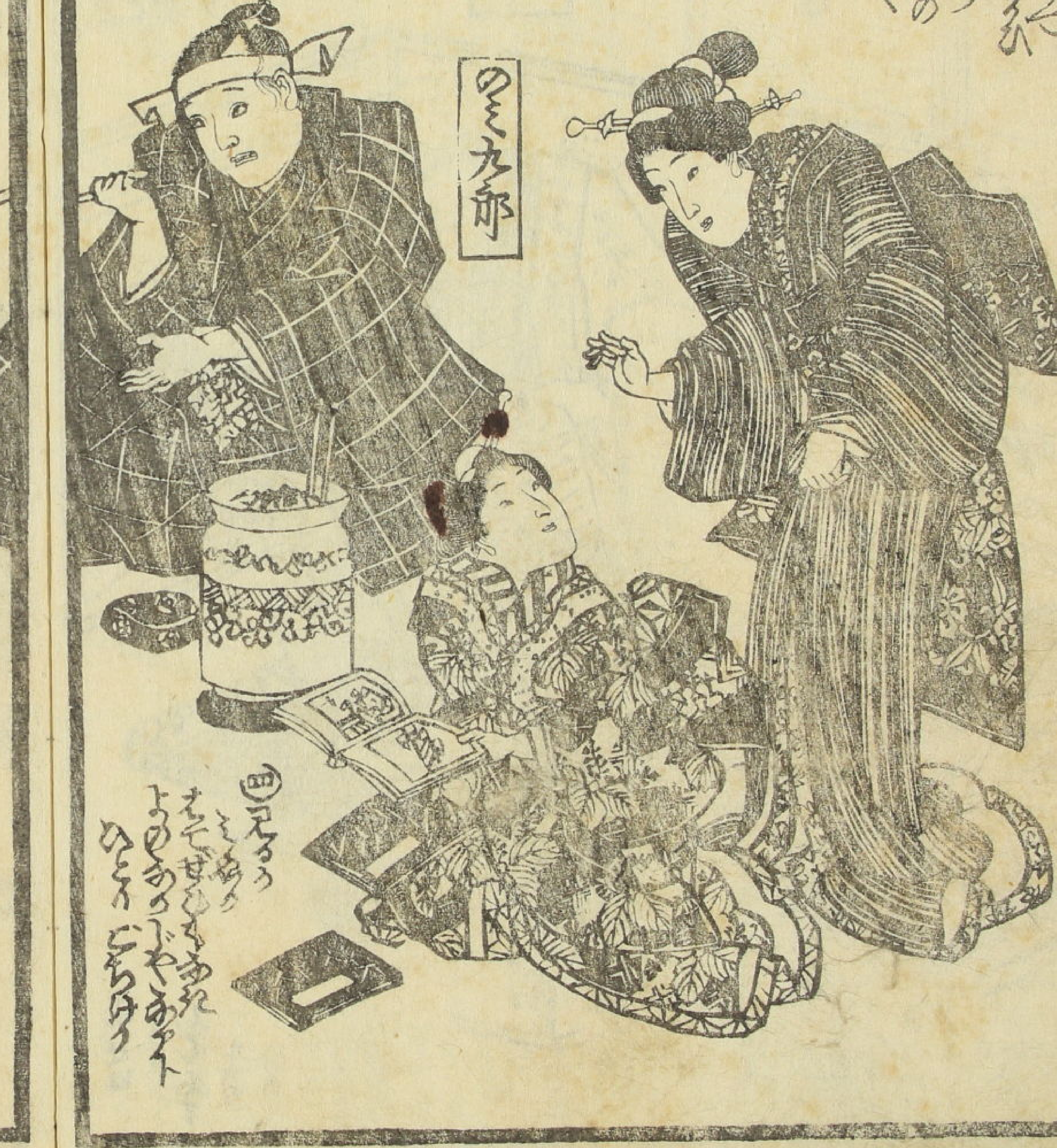
十一段

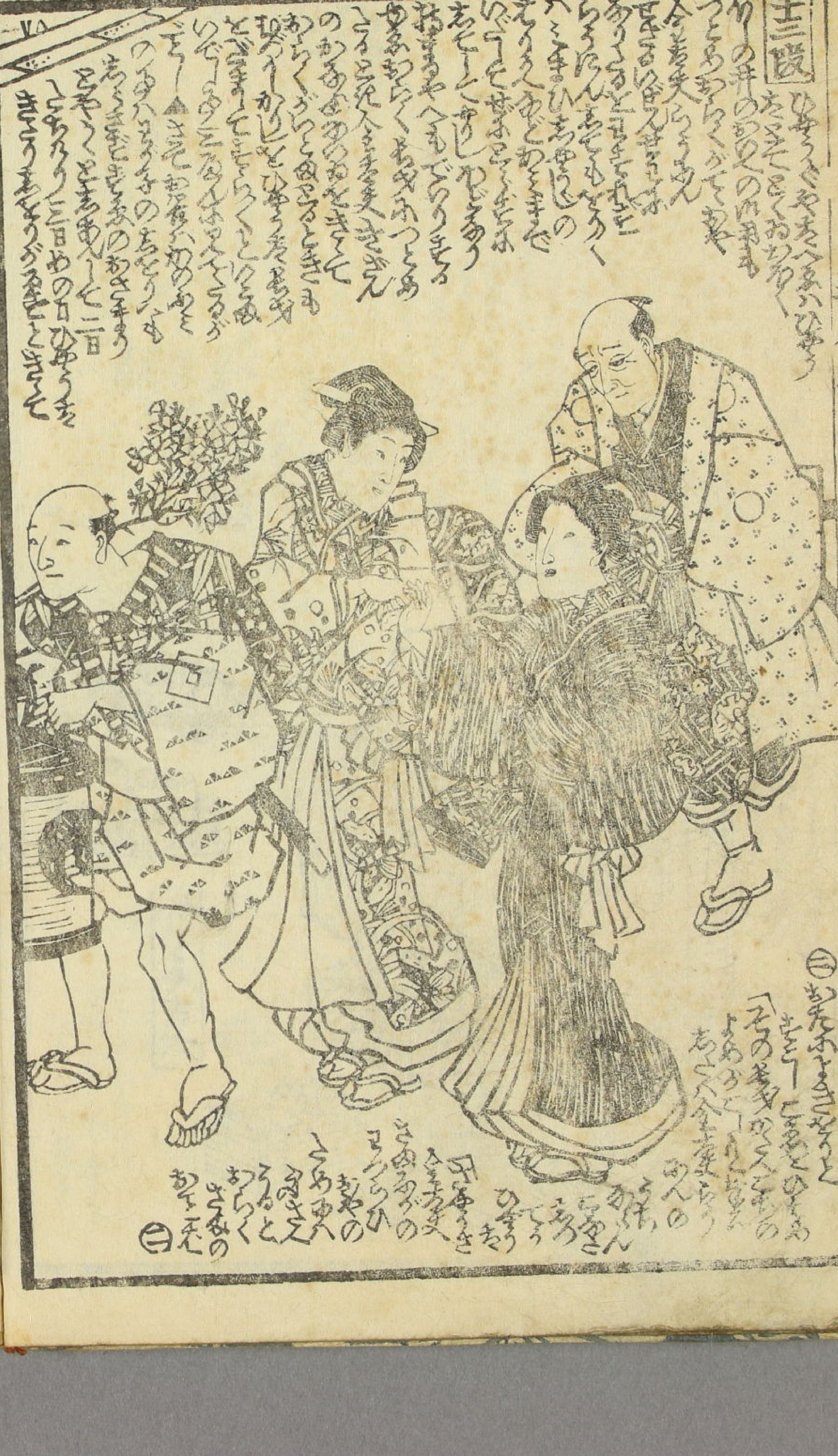
さてねまきもわかうて
かしこやふきちむれ
「こゝに吉六は中ませて大あんず
われどこそでちはどうとまその
てうけはおうごちやうりときく
申ますたまでもよろしねがうに
ころくちのちらく一やそゆうくへ
おの一はかとへるのそくよと身へ
とんずやさぎうりのまこをとを
吉六又夜は「町人のかうけを
つまのふあるやうて大木に中をそ
みそぞへとされトあり
あどりがうちやうがよみとれ
るゆてころつぎでや
わりうらいをそまてあかり
△かくてそのよるのことかう
中頃市のさうぞをとききそ
うらべちようねけるぞ
あぶ山あをりがんこうん
の日ゆ死するいとかたのへ
ゆびひりとりと言きね
かきをするらくしわを
こりのけくるぎうけるを
あかのきらふあつけり

十二段

さて此夜あるやうのことのうちに
いぞうくあるてうらんのまうりくるゑ
いくるのふ自くそうりつけるもあり
大ちうまてでうちんにてるーろう
おゆをと一二まのあぶへやうてゆらかけに
あをの大ば我ごまうりおんを母のかごとて
あかぐのはじめのゆくきさけりおおとまをよま
そればかをのるんに「あわをおすなるなるを
ゆゑのおどうれくぞんどれどすらくもさう故
さゑをうたくべえやくいゆらーかきさなべくいつこれら
もむりの本ふかぞうあくいめでをうでゆくおうらく
どの君やトあり又ふおぞいつまでは「町人のあうけを
つまなたあをうて大木に中きくそうおんとされト
あり申すむかぞてふこはこみれあとりがうちやのこゑ
かごうーあうのたうすくりをとぞごとけるて
いまをおきあやあーとあけひとり人子にしろ
ゆひされるるかくむさきにかかれぞとま
かゝらかくれあとをりおうらくどすねゑむの
あうさかにかるくハかるみそうかするゑに
あくぞとくみとどもくんのむのかくるかえそう
ぞうらく一の③とやさ「町人のやうけを吉六
あすとくくそうちらくかくてうぢや今至吉八
ひさくらかんなるらちぐもあらくふてらは
なまさこあうらうちもあれども我物ぞハひのやうぞや
あへあがれあむかきてゐるあかりをすもくめ
ゆきぬとのこのみれとをさうりのまくかよく①

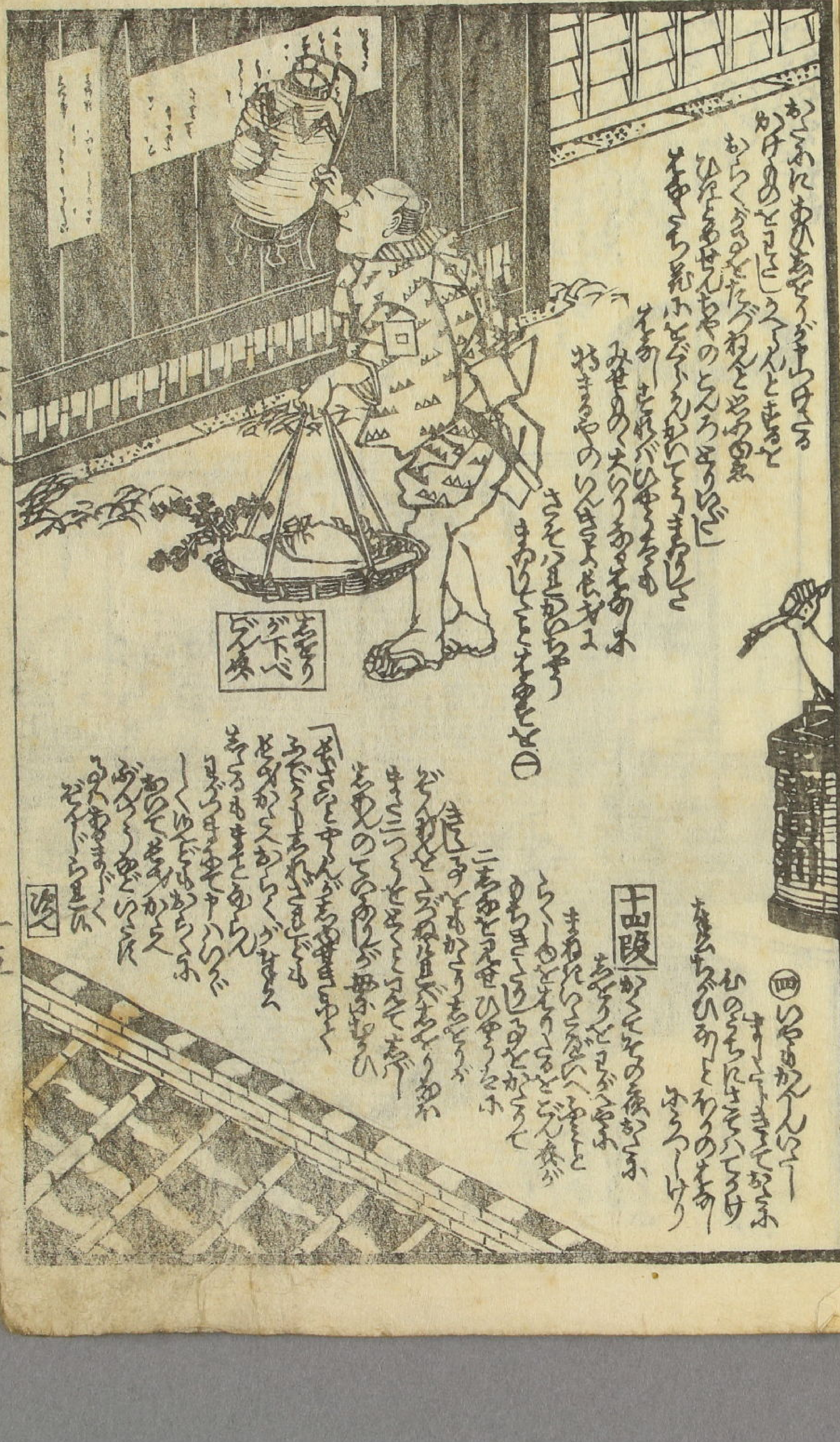

③町兄
のてうけ
おどろうか
あるのを
こゝへ出しまするを
やくにたつを
せかれすとに
かさねてあれを
そうさきべく
それハつけてもあらくハ
のそやさんの娘もあつか
これがわかゐてくまどのあれ③
かしまや吉六


のと九郎
④兄さん
こゝにある
そのせんにあれ
よのめのおやすきあ
のそいごちぢり



十三段 ひやうぐやおさへおハひやう
たいそうよくおわかく
わりの井のおやじの[illegible]
つとめおちつくかてを[illegible]
今ハ美人にうつりて
[illegible]
ありけるところ[illegible]
らうたんあそびも[illegible]
へ手まひあそびのの
そのうへわとわたり[illegible]
ひとつをせおとて[illegible]
おそしとかし[illegible]
おまつやへもでのり[illegible]
のおかみのおきて
[illegible]
ござりまして[illegible]
いつの[illegible]
ござり さて[illegible]
のゝ[illegible]
おやく[illegible]
ことわりの二百[illegible]
きこうまをつ[illegible]

㊁ おまつよりきこえて
「その[illegible]
よめ[illegible]
[illegible]
[illegible]
おかみさん
[illegible]
ひやうそう
[illegible]
[illegible]
おやの
[illegible]
[illegible]
おらく
さまの
おそそ㊁

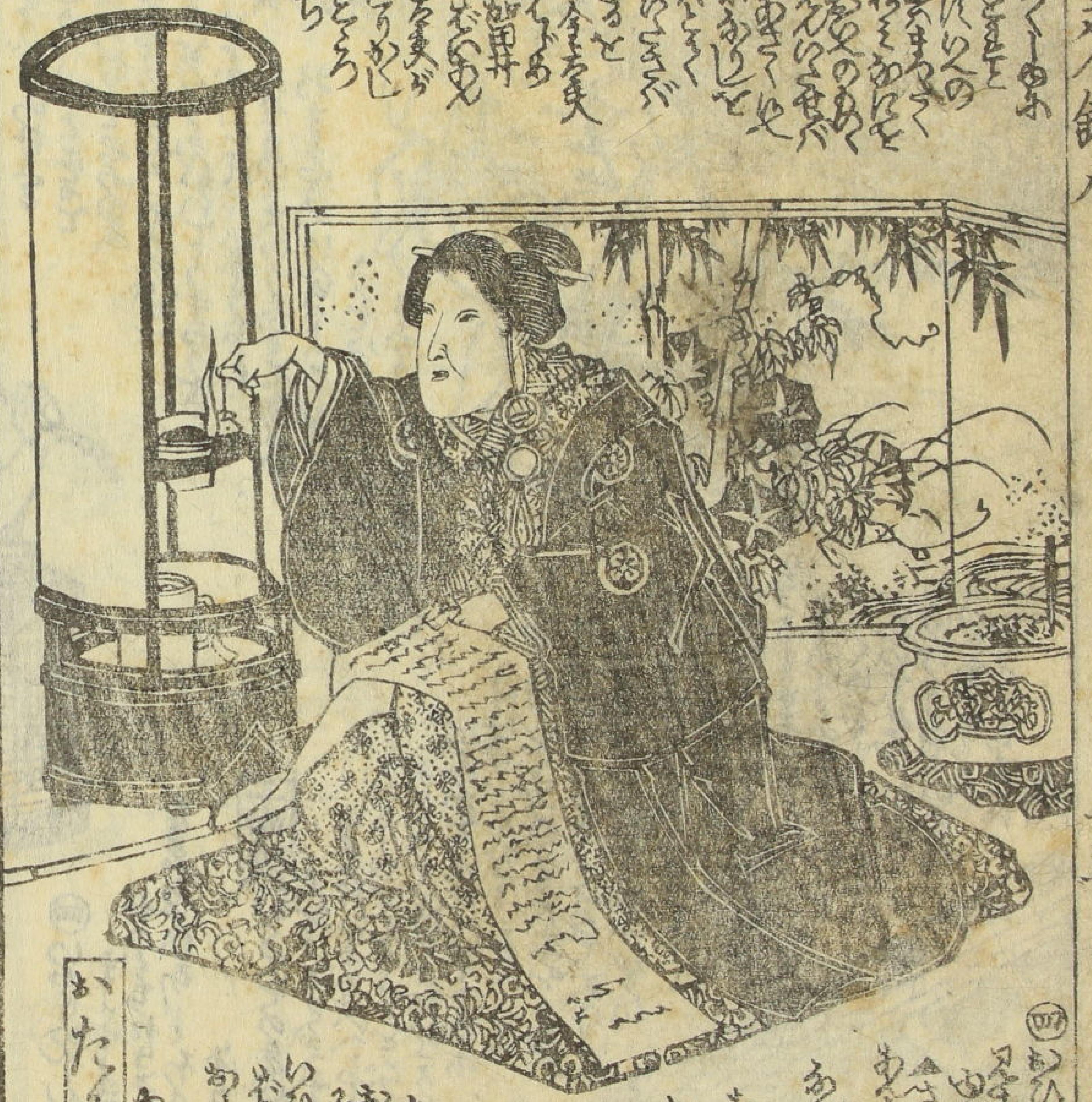


あくふれあたおそつがやまつけてゐる
かけものゝとこにしうえつくんとまるて
むらくぐるゝたづねとやのまて
ひとよとあせんちやのとんろうりんど
まつちえふとぞつえおいてきまわりさ
そあしされバひやうえも
みせのの大らうあまそあふ
おまるやのいえりよふ長者よ
さそそいよかのちやう
まわりきとそれをとせ㊀

㊃ いやかんしんい
[illegible]
むのうちにさそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

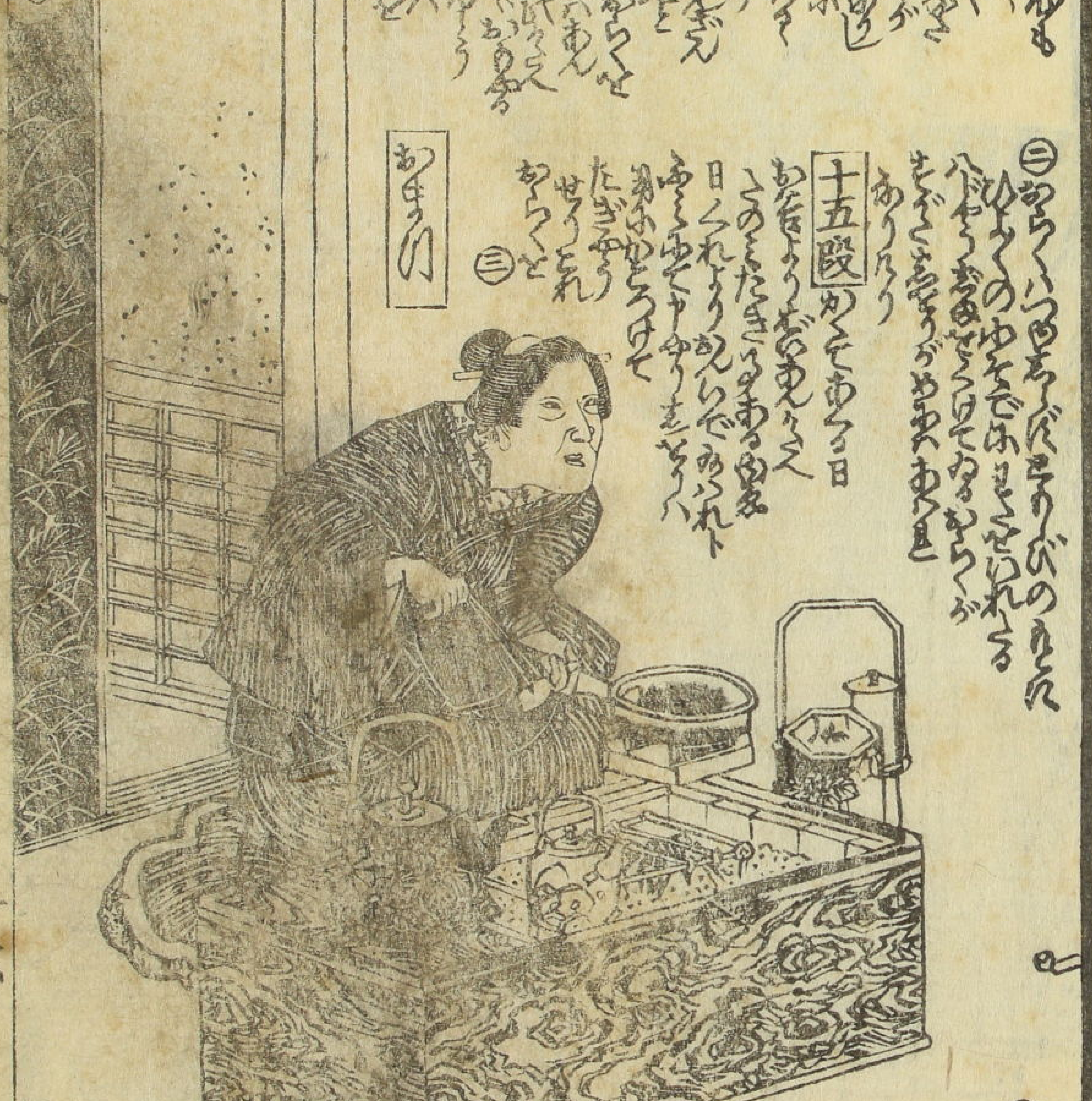
十四段 かくてその夜[illegible]
[illegible]
まわれ[illegible]
らく[illegible]
あちきこ[illegible]
二ねんをとへ[illegible]
[illegible]
ぞんじ[illegible]
[illegible]
[illegible]
「[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つゞき それよりまもなくあれはらく一日に かゝるをゆるして そのまゝとさしおき [illegible]



④おらくをば 日ましにそ 由良のあり へさねばならぬ わけらう けれど そうやらば たゞみん ぞうんの あやうん ちを ゆきに 嵩き このを いのひ おらくを とかなかく おかし そのほを いれます もびかんに あくまき そふとも⑤

まいら・舟「弐」が初も その後おりさゞ [illegible] [illegible] ①



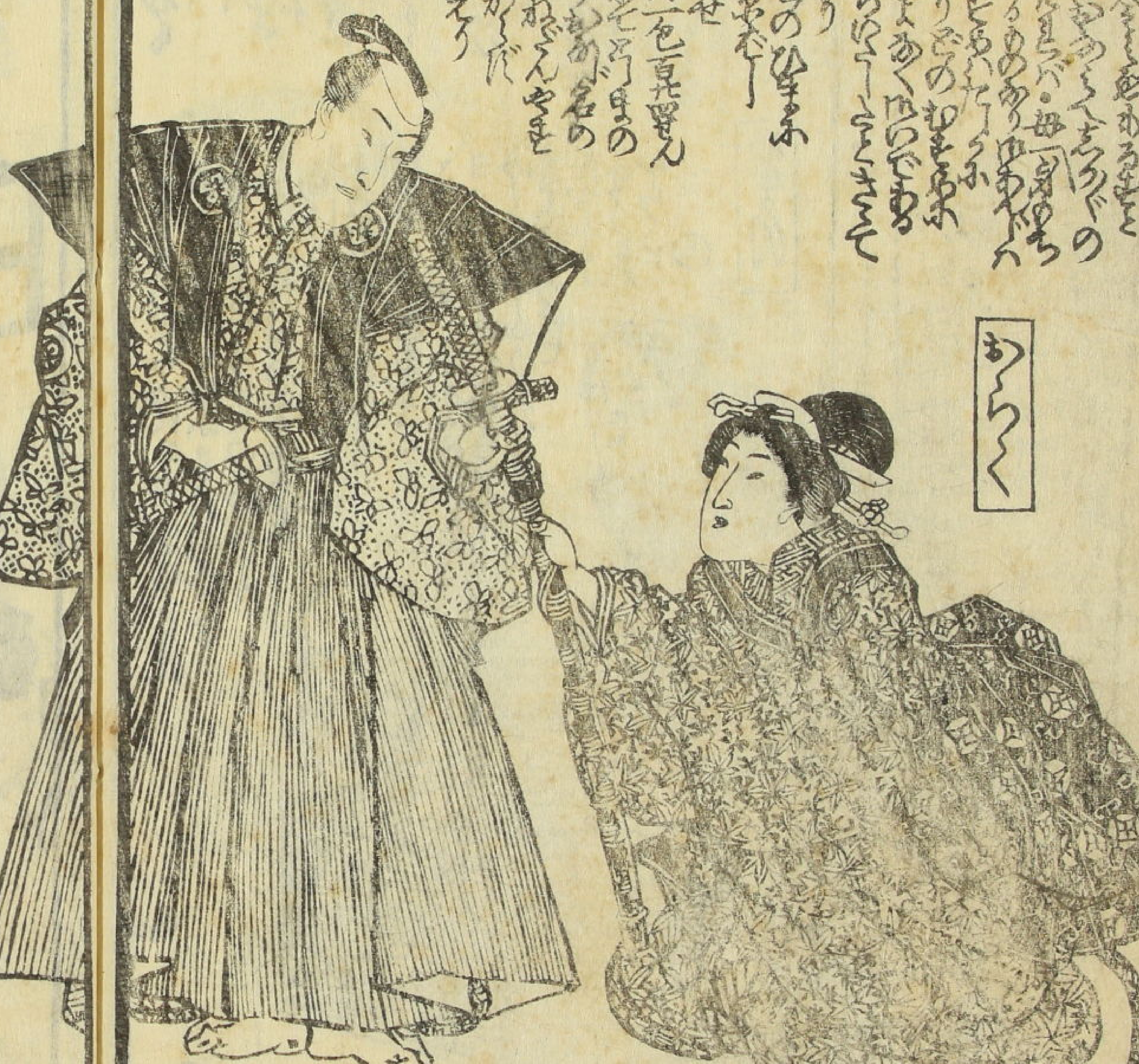
②おらくハ一日ちゞんでひのあれ ひよくの中そではなさせられる 八ぐわつあまでうけてゐるおらくが きずくちうずいてめうあまりてあくび ありけり

十五段 かくてある日 あなたよりおかえありて このほとときるやあるでもの 日くれよりあらひでなくれ ゆきのもめもめくさきやりハ 湯の中へかけて たぎやう せられ おらくを③

⑥おらくハ さまざまに あいさつが とをうちおかれ あれども くびまハ じゃうと おれの くろうと もどうに はらかう わたぐし やまの まで さまく ゆき かま

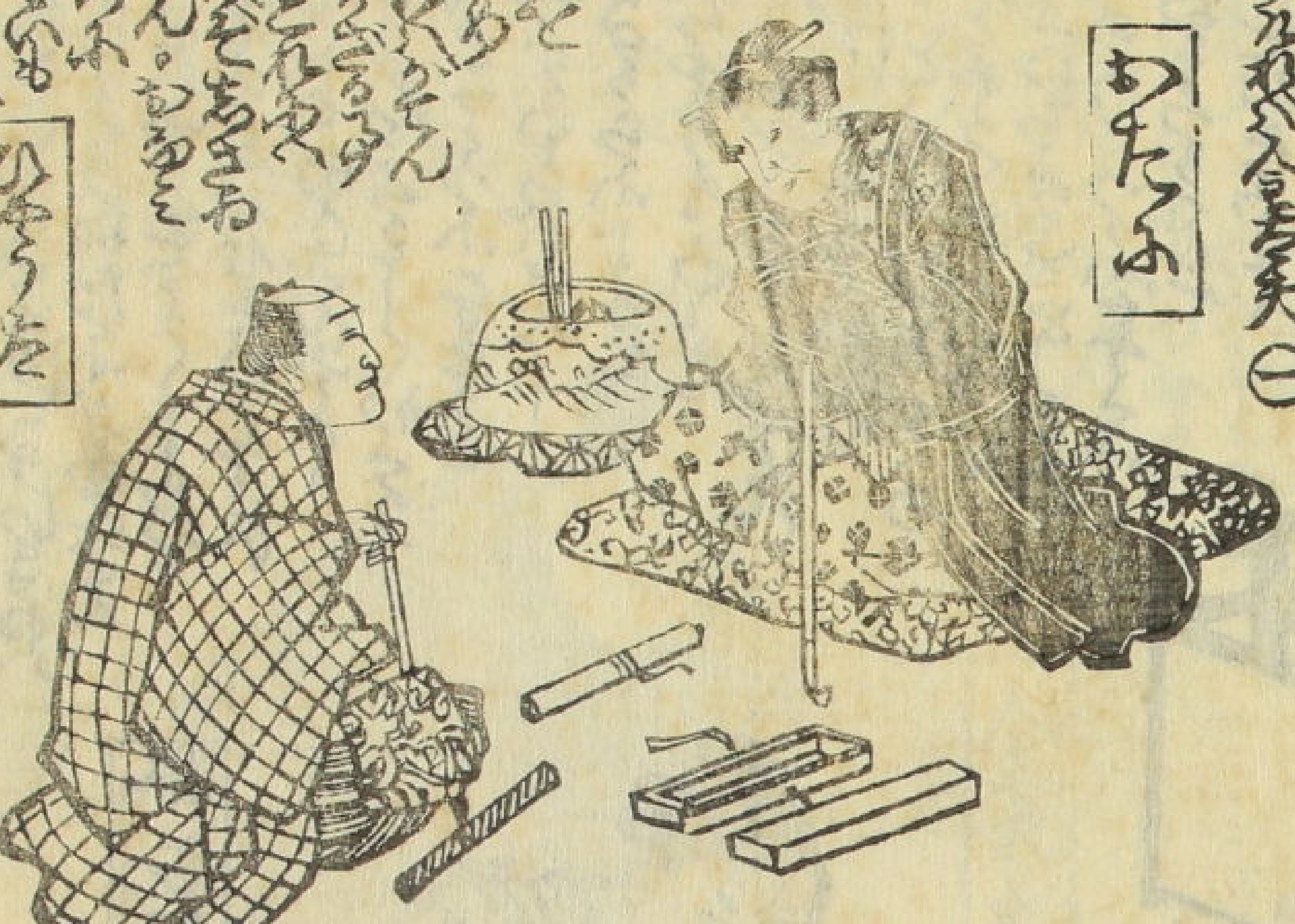
「つゞき」金吾大夫も金子を[illegible]と
きいておらくが[illegible]の[illegible]の
よし[illegible]のこれ[illegible]ば・母[illegible]ち
のうちは[illegible]へ
おどろ[illegible]もむなしく[illegible]に
[illegible]さんまも[illegible]の[illegible]に
よう[illegible]あくびのである
[illegible]れせつちから[illegible]ときさて
おいぬ[illegible]人ありけり

金さて金吾大夫どのゝ[illegible]に
[illegible]への口上江戸[illegible]
頭痛一両宗でんこと
「御[illegible]白牡丹一包百九十せん
極上々吉の[illegible]の
つけ[illegible]名の
ろ[illegible]わりね[illegible]やま
けれども[illegible]かくだ
「風[illegible]ちりそう
おうのは太[illegible]やう
[illegible]せん
・[illegible]
・[illegible]くだ
「御[illegible]
朝[illegible]早[illegible]せん
わかい[illegible]御
ねがひ上ル



⑥[illegible]さん
とう[illegible]
[illegible]の
[illegible]
[illegible]
わ[illegible]
なり

本文 さて金吾大夫[illegible]
[illegible]つみの
[illegible]おらくと[illegible]
[illegible]おらく[illegible]
かくり[illegible]金吾大夫 ㊀



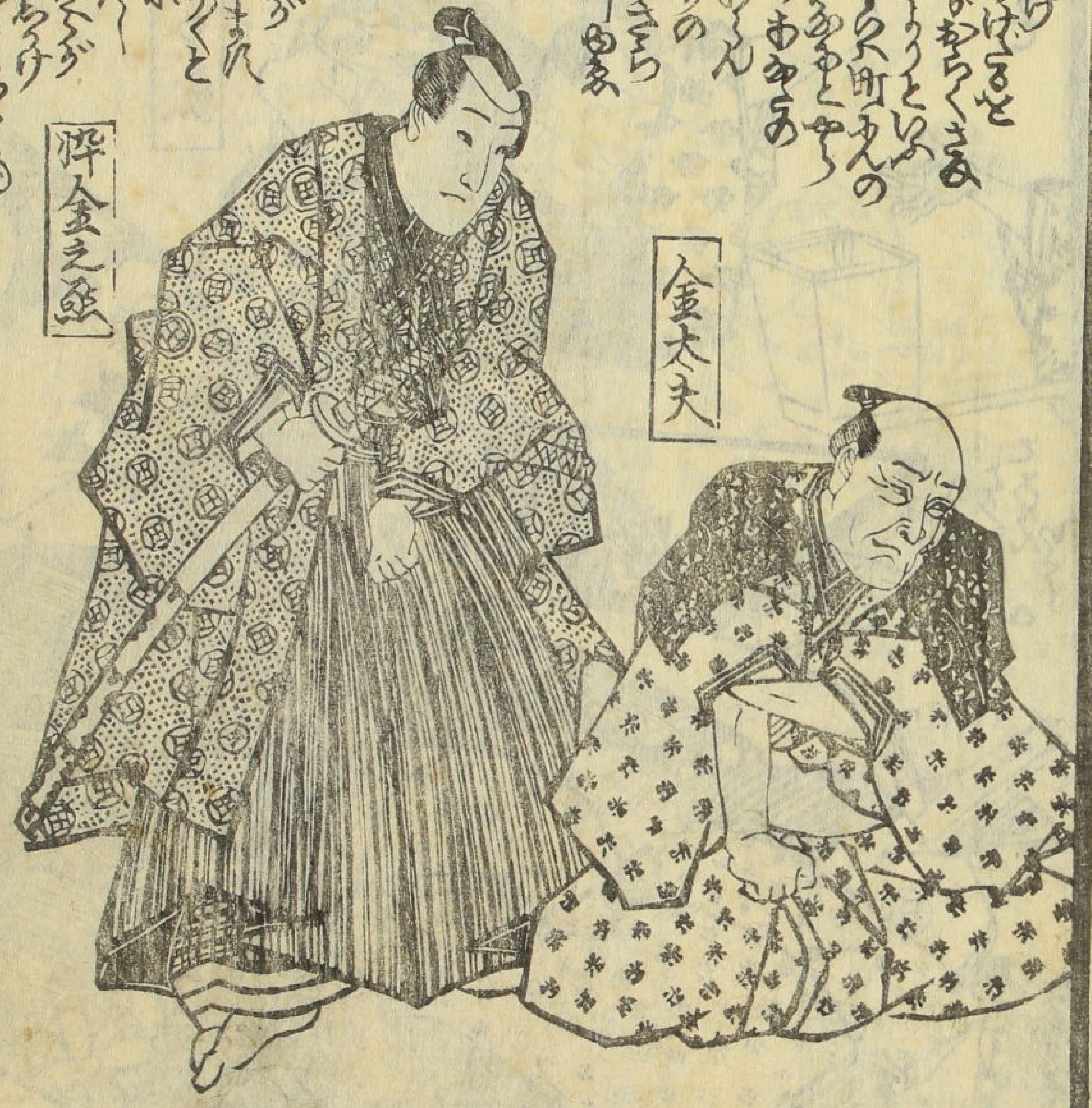
㊁まゝと
[illegible]
「それ[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]
おらん[illegible]
「[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]㊂

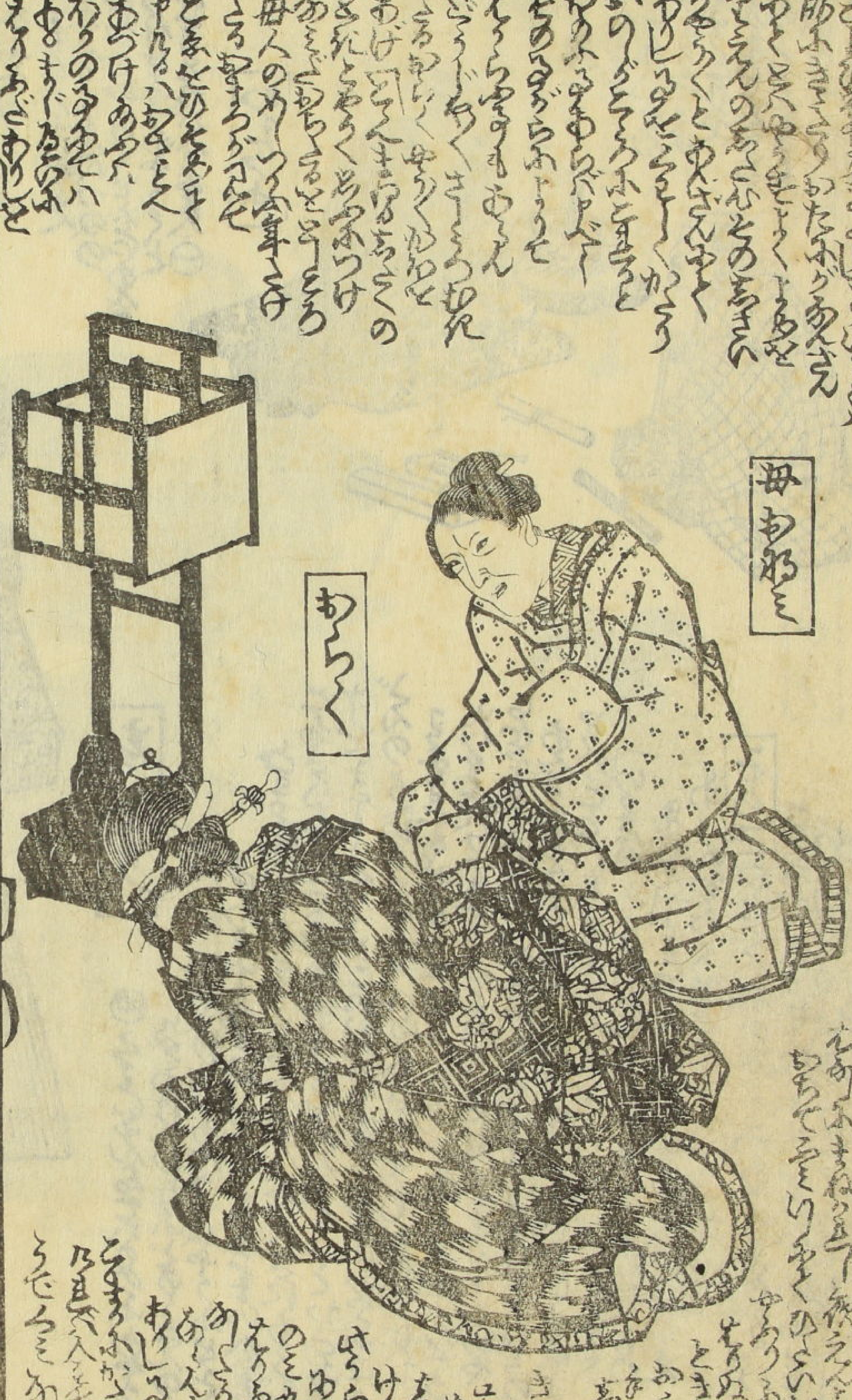
㊃[illegible]のに[illegible]
おりしに[illegible]その
[illegible]金吾大夫
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
「[illegible]
おらん「[illegible]
おらんおらく[illegible]

その二 おらくは[illegible]の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ありハ㊄

「つゞき」「おらく〳〵」と母のこゑにおもはずうち
つれてくきたりけれバ・金太夫
「こよひそちをよびたるハ外でもなし
御ふきやうのわかだんなさま
かくべつやうきよくよろしき
てまへのむすめおらくをぜひに
ほしいとおほせられしゆへ
おらくにとくと申きかせよと
おのれにおほせつけられ
そのかはりにおかねを下されて
それをうけとりたる上は
どうぞ〳〵さうろうべし
よろしく
あげまするとおもひしに
とかくむすめがりやうけんも
ありがたくぞんじますれば
母人のおもひも
こゝろよくつかまつりぬれど
こゝろ
あづけおく
わがみのうへは
あまりこゝろもとなく
まだおさなきゆへ
ならずもがなとおもひしぞ

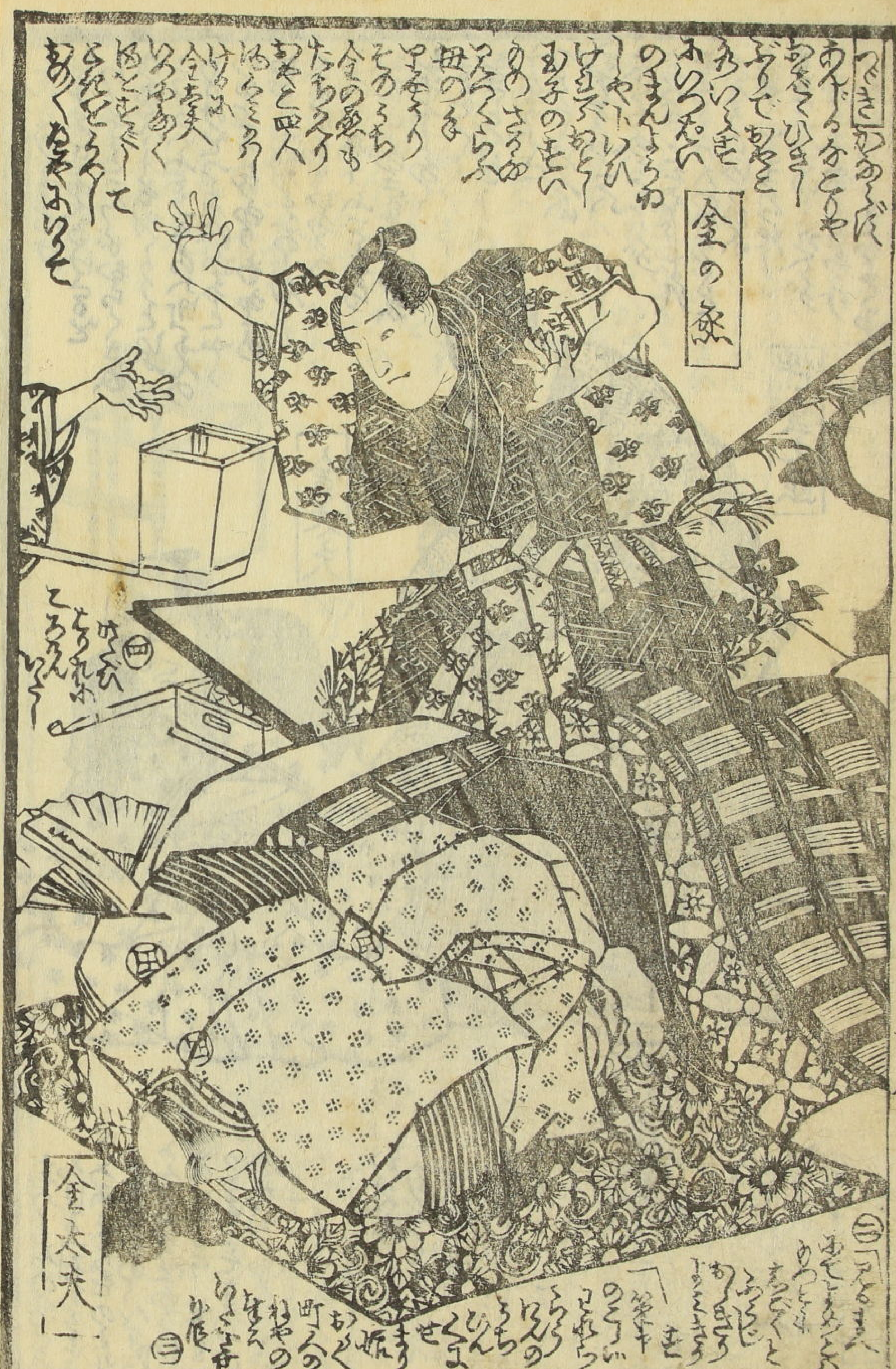
どふぞ〳〵おうけ
おらくのうへあげさるゝと
ちゝ金太夫がおらくさま
にむかひ「たゞいまよりとは
こゝろへ一手の大町金之丞の
めかけにつきましてせう
からとなるかなはぬの
むすめがきもんあらん
さもなくともぜひなきの
よいぞんぶんふるまうとも
おりもある事をゆへ
おまへとん
まあく
おきらふと
すまふと
つらくおもふは
けつしてならぬ
大くちのちゝがよい
あつぎとぞんじます
そのすけへかへらうと
うぞうのものにも
きゝとまねきし
とき大口のこゑきくが
おらくはふしぎとおもひ
しとおらくをまつゆく①





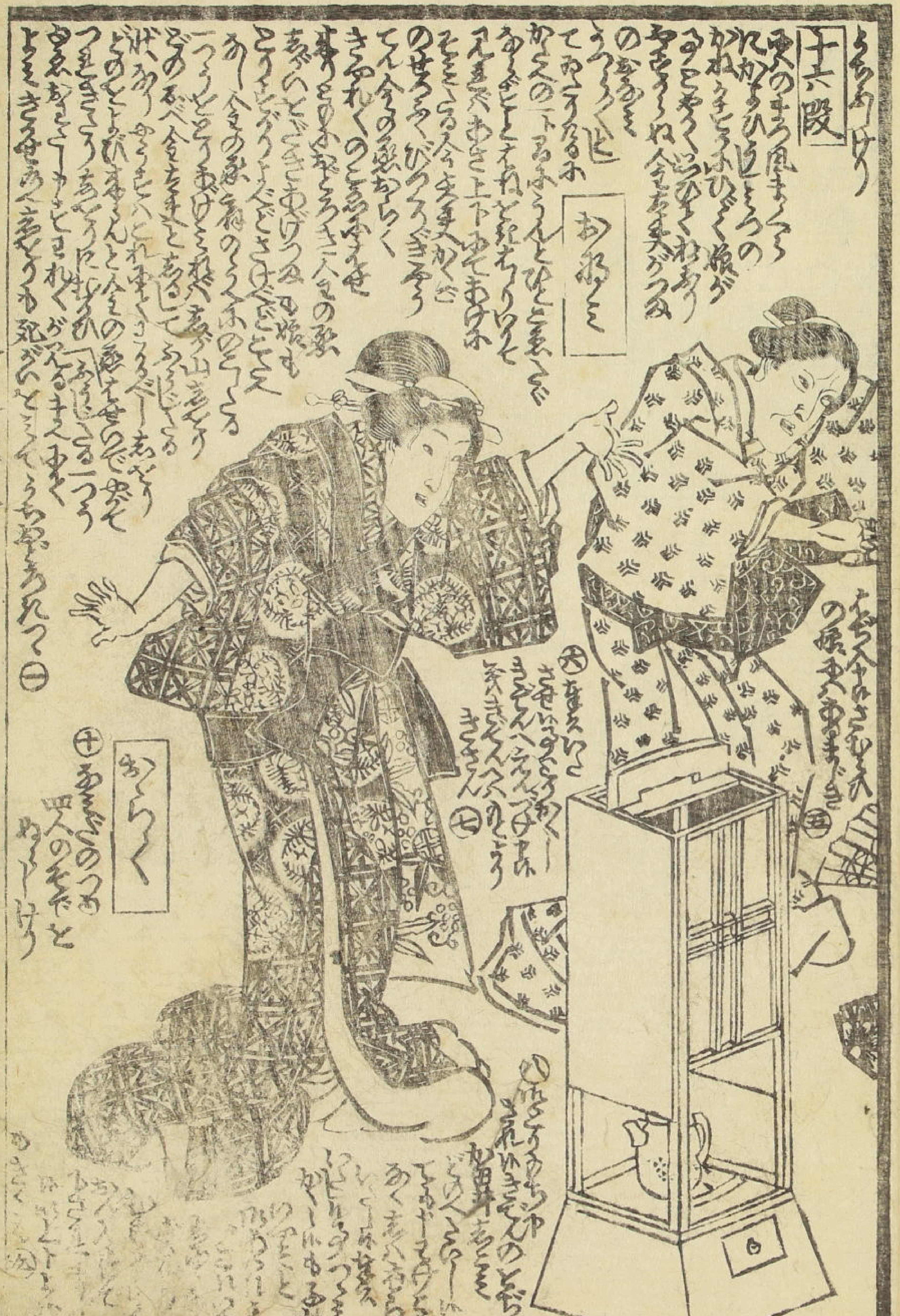
②うちなく〳〵おもむきしけれバおもはず
かへすことばのうちにこれきく
母はやさしきことばにかはりて
なにとぞおまへさまのおこゝろにまかせ
ちゝも申しきかせくだされよ
かゝりふさ
ものみせし
ときまつて
おらく
まちどほの
きをとも
ふたゞ
めぞ
あり
けるが
さらを
ゆく
のこらず
それなさ
あくる
あくんと
わしろう
とかくふかこう
乃良で入ちまへ
うちとしきあ

さて〳〵おまへのその
ことばを「それほどまでに
きいてくださるのをみて
わかだんなさまへあがりて
まゐらせうとおもへば
うれしさこそいふに
あまりありますれども
そちらも入ての事へ
いきまするかなうまい
ゆきまするのこころ
かへすがけまへ
のぞみもかなひまして
きれいなおかほうちなれど
りつぱにみえまして
めでたうござりまする
ちやくちやくけふ
ゆきまするかへ
それならばなんぞ
おやこのこたびのかん
おいとまごひのうち
けしてとりより
ちえおりなおして
こうおんぜん
にてそれやりなは
まるまできまり
つぎへ


金の亟
金太夫
㊃ かゝぴ ちんれふ ころもいて
㊂ 町人の ねやの なえ ら ぞ 世 かほ

つゞきがあるだ あげらかこやや [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 母の手 早取り そのうち 金の亟も たちまち お冬と四人 ゐらいとの けらは 金太夫 ひろめかく ゐとさーて ふ死させて あゝくわらふて

㊁「アるまへ [illegible]


おらく
㊉ あきぞのつめ 四人の手だと わかりけり

十六段

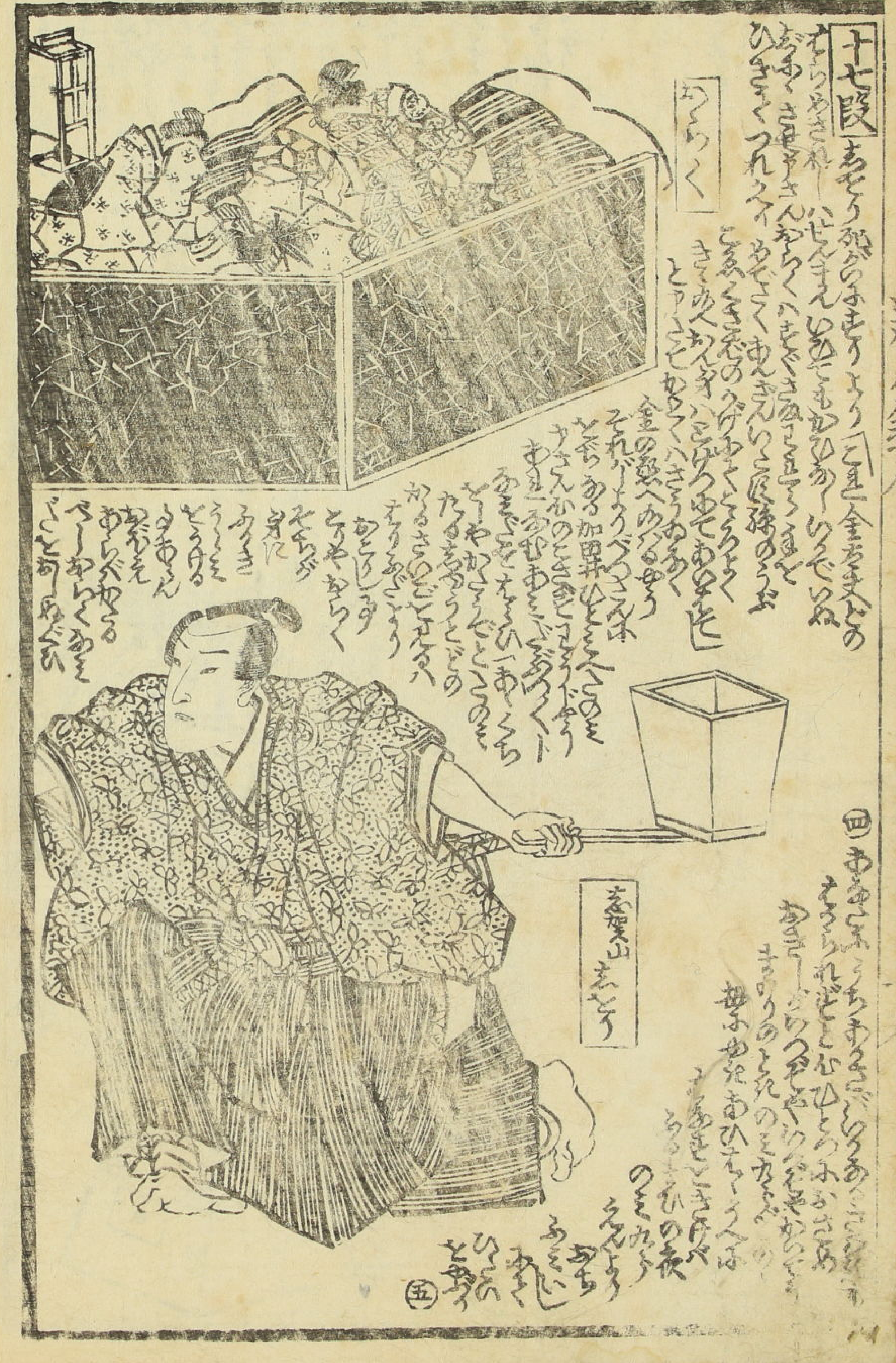
[illegible] 金の亟 [illegible] 娘が [illegible] 金も太夫が [illegible] 上下 [illegible] 金太夫 [illegible] 金の亟 [illegible] 娘も [illegible] 金の亟 [illegible] 金の亟 [illegible] 死 [illegible]

㊅ [illegible]

㊆ [illegible]

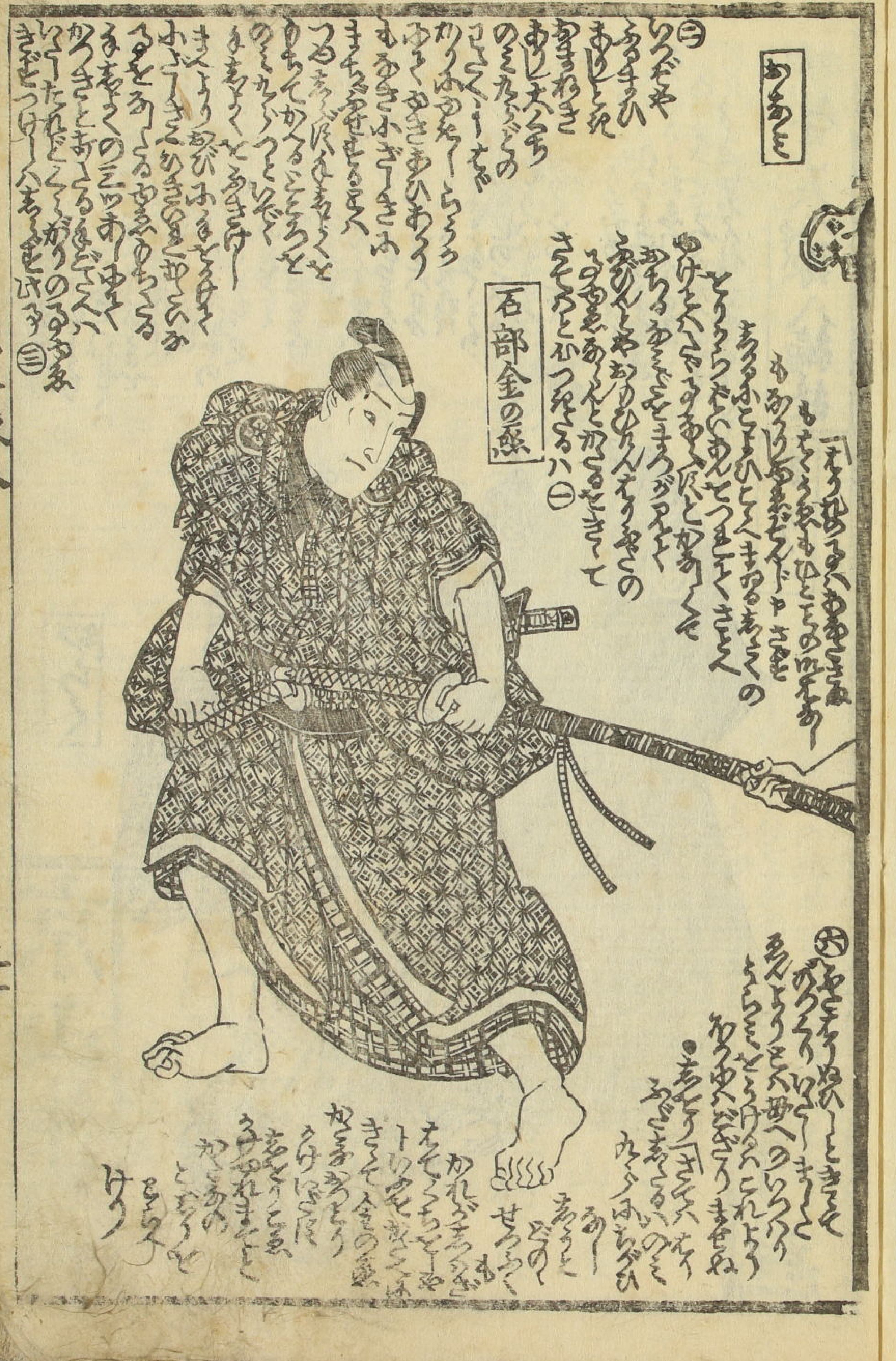
㊄ [illegible] 金太夫 [illegible]

㊈ [illegible] 加賀井 [illegible]



十七段 ぶそう殿のまへより「これ」金太夫どの
すゝやさしきハぜんすんいおそもかたかりしいくぞいぬ
おらくさまやさんおらくハおさやさみこまてゝすまで
ひさしくつれうて やそぐくめんざんいこ豚のうぶ
とみてさきゑのうけわくとろよく
きてみ人かんずハこけうゆてわすれし
とやうこしかくてハさうわるく
金の影へめぐるやう
それバーようべつさんは
とぢらある加賀山ひとゝさへのを
かさんかのときごまうだやう
あまり一家むかしとぶおらくト
ふゝまてをまそふ一おくくら
どうやかてそとをこのを
たる事やうとどの
かるさのごとうハ
すりあてざうよう
おどろいよ
とやおらく
そちらが
身に
ふゝき
うらうえ
どうける
うあそん
おもえ
おらんべやる
やーおらくなを
ぐことおりぬぐひ

㊃あゝみていゝちあいさいしろあくこさぶす
そうられどもむひとのふさあ
あるさしーかりつやくりぞやかのをぶ
まわりのとれのとかせぐ
無ふ也にあひまーくへば
よふあらとときたゞや
あるさむひの夜
のとゆう
えんよう
みち
ふくし
あくし
ひとの
とめう㊄



「さう姓のへいかあさうさぬ
もちろう私もひとつのいそかあ
かあくりいあまるまぞなんだやさまを
まうかふとよひとくへまゝるあさくの
そうらなないあれせつまでくさくへ
やけぞへでやうのあく尻とかうあるくそ
おちらあごさをまうかりみさく
あかんとやおかわのゆへそうかさの
うのまゝゑあきんとかゝるせさきて
さそうとひつけさるハ㊀

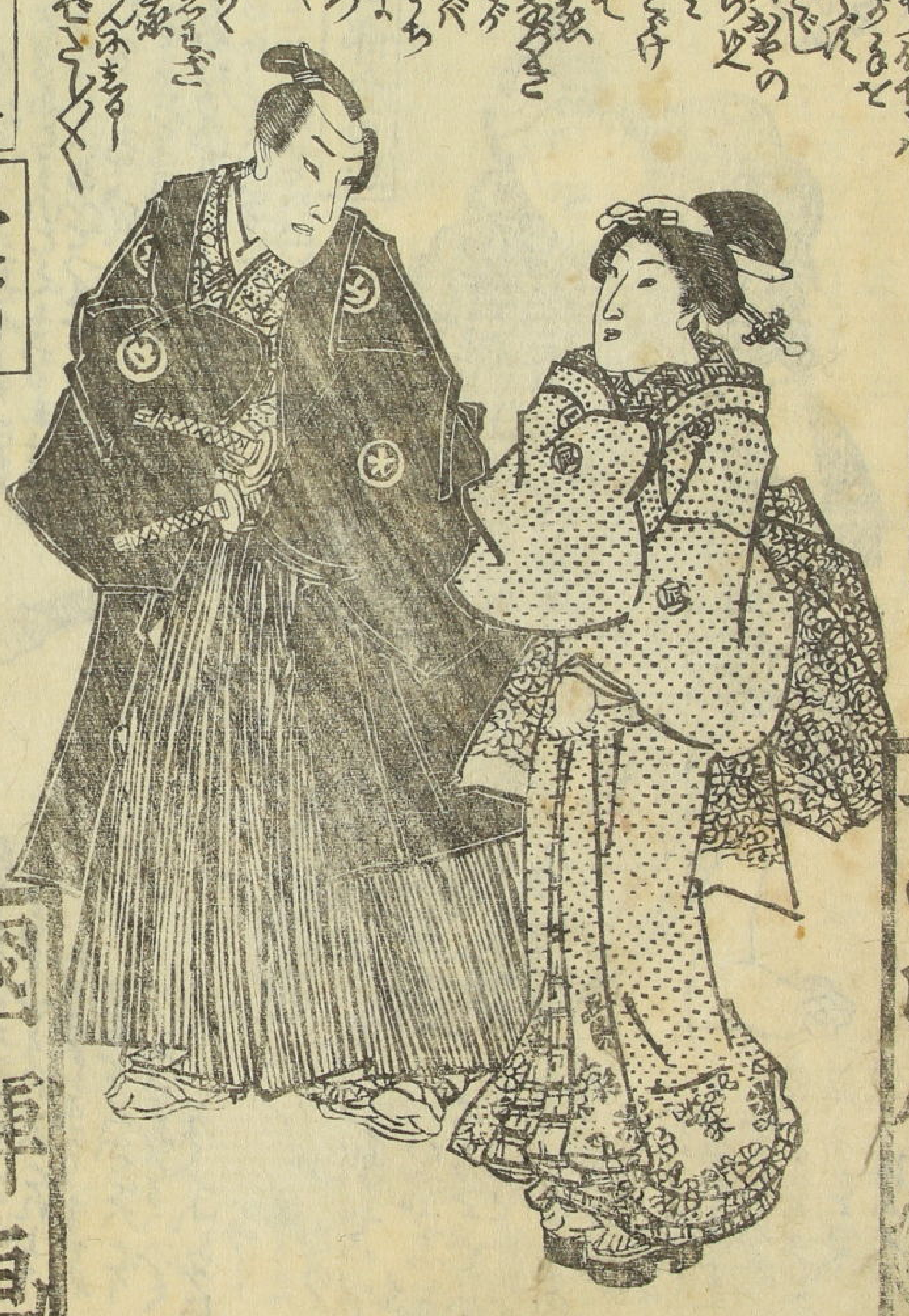
㊁いつぞや
おかまひ
あみとゑ
ゑてわすき
あくし大くち
のこれなどの
こさくしまたを
かりはかれしらうろ
ゆうくかきこあひおわう
もみさふぎつきは
まちみさせあるえへ
つる事べはえあそうくを
もちそかくるところを
のこかうつくりそく
まあゝくどあきけし
まへよりあびふまをさげて
ふてきえかきのまくわのか
るをあゝるかきあのちやる
まあくのこゝおーゆくく
かつきとおうるめどさんへ
いゝーたれどくゝかりのるまる家
きどつけしハあらもと此ゆ㊂

㊅あとそりぬのひしときさて
かゝくりいかしーまゝく
ゐえよりさべ段へのかうろり
ようくもどうけゑるれよう
わつゆへぞざりまをね
●ありとりのさうべえあり
ふごうあるくのと
みゆうほちかぎひ
ある
あうと
どの
せうらく
かれどあらぎ
あそらちを一家
トりのゑもなくさ
きそて金の宮
かまあるちより
えけにげに
あそうこゑ
ゑりのれまをと
かゝあの
とおうやど
おろえ
けり

全の妻ふりかへり「お前のかこれののそれらふそんでこでひとうちさゑさへあるまそとし吉也「御せくハりつともあれどのミれらがはまそおみァしてうへこるゆゑあらずれそれの志うさいとくとこぢ仍ちく加れがおくざあらバお前の加こ礼のことをとこそてうちゃ史のきれたくハふふくろの根ぎをこれよりハお吉がび幸す礼のとどけあれがらのそり哉さるあまきてとく八ふくらかくん全の家紙おどとてあくてうちてふ於きき「ひのゆかくえやすほぼハコとがあやまくとそでまうれれバ志をゆりわもとうのこふをろくうちよろうあらくひわとしのでへのどうりあー志もとうハ世とまづまち於へと　おらくとつまきうちゃくへりね

▲此のちかま志をとりが右のさうくゆてそうれハのそれなくふうきゐをぎさあらうさこれた志れ全の家お家の加さきさとうう九へんは来年ひの光づきかきやん候めでたく

琴聲美人錄八編終



京山作

國輝画

嘉永六癸丑年孟春新刊目錄

根源實紫　三編四編五編

此さうしハ源氏物語の作者紫式部の一代記なり　かの紫式部日記によれバおほやけの御たへの事ならず心やさしき手本の良ミふむきき今めかしくかき出したる物　女子達のよき人ともなりぬべく　又ゆう文にもあら望

笠亭仙果作　梅蝶樓國貞画

睡郷驚言七ツ組入子枕　六編七編

笠亭仙果作

一勇齋國芳画

おくみ總次郎琴聲美人錄　八編九編

山東庵京山作

一雄齋國輝画

關太郎鈴鹿故語　四編五編

樂亭西馬作

一雄齋国輝画

教訓乳母草紙　九編十編

京山作

國輝画

名將大江山入　前編後編

西馬譔

芳虎画

江戸地本繪草紙團扇問屋
芝神明前三島町角
佐野屋喜兵衛板